

開議 午前 9時00分

◎開 議

○議長（澤西省司君） ただいまの出席議員は10名で、定足数に達しております。
これより本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（澤西省司君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。
なお、説明員は12月10日と同様ですので、御了承願います。

◎諸般の報告

○議長（澤西省司君） 日程に入る前に諸般の報告を行います。
12月10日の本会議散会后、議会運営委員会、全員協議会を開催し、定例会の議事日程等について御協議いただきました。
以上で諸般の報告を終わります。

◎日程第1 一般質問

○議長（澤西省司君） 日程第1、一般質問を行います。
通告制により通告された質問者は、野口直次君、爾見淳芳君、石山貴美夫君、佐々木直也君、山下真男君、野崎郁徳君、石関華君、山田貴之君、中原緑君です。
質問者が6人以上となりましたので、議会運営の申合せにより、本日と明日の2日間に分けて行います。
本日は、野口直次君、爾見淳芳君、石山貴美夫君、佐々木直也君の一般質問を行います。
再質問は一問一答方式とします。的確に質問、答弁をするようお願いいたします。
順番に発言を許します。
8番、野口直次君、発言を許します。8番、野口直次君。
○8番（野口直次君） おはようございます。8番、野口直次です。
通告に従い、一般質問をさせていただきます。

師走に入り早いもので、今日は18日。あと僅かになりました。国も18兆円余の補正予算が成立いたしました。景気対策も打ちつつも、物価高騰が年末年始を迎え日常生活に暗い影を落としていると思われまます。そんな中でも、町のLINEクーポン事業は盛況で、注目をされております。

議会も、新体制になり初めての一般質問で、9名の方が壇上に立ちます。それぞれがいろいろな角度から発言をいたします。町民から託された意義をかみしめ、また、町民に常に感謝の気持ちを忘れずに前に進んでほしいと思っております。これから、機会あるごとにあらゆる面での出会いを大切にしながら、議員一人一人が仲間同士になったなどそれぞれの議員が少しでも早めを感じて、10人一緒に次のステップに進めたらいいなと考えております。では、トップバッターを務めさせていただきます。

周りの山々を見ると、民間事業とはいえ、電力会社の国策に近い、あちらこちらで大規模な送電線の鉄塔建て替え工事が施工されています。重量車両が林道・町道等を利用しております。部分的には補修工事も行われているが、工期は令和11年3月までと聞いております。その間、道路は、新設工事と旧鉄塔の撤去に使用されます。町と事業者が補修修繕工事を一括交渉が必要とされる懸案だなと私は考えております。今後の推移を見守りたいと思います。

12月14日、静岡新聞において、お茶輸出急増で1万tを超える見出しが一面トップに掲載されております。健康志向から抹茶人気、円安追い風、71年ぶりに年間1万tを超え、右肩上がりとの記事でした。ここ数年の国内生産量は7万t台で、急須に入れて飲む家庭が少なくなり、高齢化が進み、農家の後継者不足が要因と載っておりました。輸出業者は、国内の需要が減っても、海外に販売先が確保され、生産量の維持につながることも話されていた。川根地域の状況を見れば、複雑で様々な要因があると思われる。碾茶の有機栽培・煎茶需要の拡大、また、一番茶重視の栽培形態からの改善等の課題も含め、対策は急務と思われまます。心配しながら、でも、来年の価格の上昇に期待する今日この頃でもあります。

当町の中で、篤農家と言われる方に私は言われました。要約すると、このままでは産地が消滅する可能性がある。議会としてどう考え、対処されるのか、そういう議論がされているかと言われ、啞然といたしました。私は議員でもあり、零細農家でもあります。一から十まで議員は民間の課題を取り上げ、何らかの方法で対応されるべきと考えておられるのでしょうか、私は、返事ができかねております。心の中では、プロの生産者ならば自分のこととして、業界（組織）内でみんなで知恵を出し合って解決策、または要望等を考えるべきだと言いたいと思っております。この件は、今回の私のテーマにも関連する大事なことです。当然、議会も、団体等から要望書・意見書・請願書等が上がってくれば、対処しながら行政に伝えていく。私の考え方は、上から目線でしょうか。非常識で言葉も乱暴かもしれませんが、私を含め、守られた職域にいる人は甘えがあるのかなと複雑な今日この頃の心境でございます。

いずれ、当町の財政規模から見れば、近い将来、予算総額50億円を切る必要に迫られてくる状況を察しながら、裏腹に、来年度の予算編成に当たり予算要求等質問するので、複雑で

切ない気持ちであります。声も小さくなります。

さて、本題に入ります。大きくは、町の茶業（農業）の施策に関する今後の展望についてお聞きいたします。

（１）各品評会への出品支援や、煎茶・碾茶に関する農業施策について、今後も現状と同程度の規模で展開して行ってほしいが、今後の方針について考えをお伺いいたします。

（２）ＪＡが本来やるべき営農経済・農家経営への支援について、現状として、消極的に私は映ります。町からもＪＡに積極的に助言してほしい。民間企業に対して関与すべきでないことは承知しているが、あえて町の考えをお伺いいたします。

（３）一部の現在の農家体制を保ちつつも、町の将来を見据えて、農業法人・会社組織化を進めてほしいと考えております。考えをお伺いいたします。

（４）町として、地元茶商と協力して進めている、また、町で検討している販売促進について、現時点での成果及び進捗状況をお伺いいたします。

（５）３年間行ってくれた茶製造機械長寿化緊急対策事業の補助制度の続行を要望いたします。制度に対して、今後の考えも伺います。

５つの項目から成っております。

壇上からは以上です。お願いいたします。

○議長（澤西省司君） ただいまの野口直次君の質問に対し、町長の答弁を求めます。

町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） 皆さん、おはようございます。

それでは、野口議員の質問にお答えさせていただきます。

令和７年における全国茶品評会におきましては、普通煎茶４キロの部で、１７回目の産地賞を獲得、相藤農園が１等１席農林水産大臣賞を受賞するなど、川根茶が日本を代表する産地であることが改めて示されました。また、荒茶や碾茶の価格が非常に高騰しており、今後の動向は不透明ではありますが、本年は茶産業にとって大きな転換期となった認識はしております。

それでは、項目別にお答えをさせていただきます。

まず１つ目の農業施策の今後の方針についてお答えします。

農業施策に関しましては、経済・社会情勢や世界的潮流を踏まえた施策展開が重要であると考えております。国及び県の施策動向を注視し、それぞれの支援策を最大活用するとともに、町独自のきめ細やかな支援を展開してまいります。全国茶品評会等の品評会対策についても、栽培、製造の両面でこれまで以上の支援を行ってまいりたいと思っております。

２つ目です。ＪＡに係る町の考え方についてお答えします。

ＪＡには、的確な営農指導ができる人材がいると認識しております。昭和期には収量増加や品質向上のための技術改良・普及で大きな役割を果たしてきました。近年は、農業者側の技術水準も平準化してきておりますが、今後は生産の効率化を目的にスマート農業等の新技

術普及において、JAに大きな役割を期待しているところであります。

併せて、農業者側も受動的な期待にとどまらず、積極的な相談・指導要請を行うことが重要と考え、農業者側とJA執行部の双方に伝えます。

3つ目です。農業法人・会社組織化についてお答えします。

組織化・経営の課題については、平成後期以降、新たな農業法人の設立や個人農家の法人化、他産業から農業への参入が進み、組織的な生産・販売が進展しています。一方で、平成初期に形成された共同組織や一部農事組合法人では運営が厳しい事例も見られます。今後の農業経営においては、個人・法人を問わず、経営者の経営力が問われます。町は農業技術や流通販売に加え、経営の側面についてもJAや県農林事務所と連携して支援してまいります。

また、令和7年3月に設立された特定地域づくり事業協同組合に大きな期待を私は寄せております。同法人が組織的経営体の形成や人材確保に寄与してくれることと考えております。

4つ目です。販売強化促進事業について、現時点での成果及び進捗状況についてお答えします。

川根茶産地の茶商は、産地問屋と小売を兼ねる事業者が多いという実情があります。町、川根本町茶業振興協議会、川根お茶街道推進協議会において、継続的な販売促進の支援を行っております。長期的な販売力の強化を目指し、関係団体と協議を重ねながら、新たな販売促進活動の活発化に努めております。

併せて、茶商だけでなく、JAや小売茶農家の販売活動が円滑に行われるよう、協議会事業を通じた協力先とのマッチング等の支援を継続してまいります。

5つ目の質問です。茶製造機械長寿化緊急対策事業の今後の考え方についてお答えをさせていただきます。

令和5年度から7年度にかけて、3か年の緊急対策として、製茶機械長寿命化に取り組んでまいりました。野口議員をはじめ、議員各位の御理解と御協力に深く感謝を申し上げる次第であります。

次年度以降は緊急対策の段階を終了しますが、製茶機械の高性能化や省エネ化をテーマとした川根茶生産基盤の維持を目的に、茶機械の長寿命化対策に取り組んでまいりたいと考えております。

壇上からは以上です。

○議長（澤西省司君） 再質問を許します。8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） 冒頭の答弁ありがとうございました。

やはり農業というのは1日2日でどうというものではなくて、やっぱり長いスパンの中でいろいろなことも起こり得るし、また、町長が言ったように、この1年間、数年間は非常に激動というか、いろいろな町、また、先ほども言いましたが、世界的に抹茶ブームとある中で、再質問をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

最初に、農林業センターは、生産者、農家には必要不可欠な施設であります。今後、将来

にわたり、ますます必要の頻度が高まる施設と感じております。今後も農家のとりでとして、引き続き予算確保に努めてほしい。町のお考えをお伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 議員御承知のとおり、私も一緒にいろいろやってきましたので、農林業センターの位置づけというのは、私も感じているところであります。

農林業センターは、町直営の農林業試験研究機関であり、本年度から高収益作物ワサビ苗生産と試験栽培に取り組む農業改良普及における中核施設です。近年、JA営農経済センターとの連携体制を特に重視し、運営をしているところでありますけれども、予算に関しましては、事業内容、必要経費の精査を行いつつ、必要な予算を来年度予算に確保していくつもりでございます。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

やはり、農林業センターは私の町の、県下でも珍しいというか、非常に町としてはすばらしい設備を持っていると思いますので、今後も、今町長がおっしゃったように、やはり生産、何をやるにも最初は試験的なことが多いものですから、ぜひ今後も農林業センターの充実をお願いして、次の質問に入ります。

農林業センターの職員の確保が近々の課題と考えております。対策をお伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 議員おっしゃるとおり、令和7年7月ですが、1人退職をいたしました。現在、対応を検討している最中ですが、また、軽作業に従事している会計年度職員についても、何らかの形でこれから確保しながら、進めていきたいと思っております。今、途中です。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

ここは、職員といいながらも、やっぱり技術的な関係もありますので、どうかいろいろな形の中で、来年度の一番茶品評会に間に合うという言葉は悪いんですが、ある程度人員が確保できることをお願いしたいと思っております。

続きまして、世界的に伸びている抹茶の需要に、この小さな当町がそれとマッチングいたしました。この施策に私は称賛に当たると言っても言い過ぎではないと思っております。生産から流通販売において、また、雇用にもつながっている、当町では往年、茶業界の大きな課題を抹茶・碾茶を通じてこの数年でやり遂げようとしている、波及効果も期待されていると考えます。

今後も、煎茶を含め、積極的に果敢に取り組んでほしい、その点について再度お聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 議員がおっしゃるとおりということで、流通販売の場合は、町に関しては順調、これは何が原因かという、やっぱりサプライチェーンを持っている。私はもう今お茶やっていないんですけれども、やはりお茶、煎茶の部門だと、小売やったり、JAであったり、いろんな販売形態があっっていて、なかなかお金につながらないところがあって、私も苦労しながら、一生懸命生産家として、またお金がないからアルバイトもやったり、皆さんいろんな形態があると思うんですけれども、その中において、マーケティング、今、茶茗館で呈茶を行ったり、いろいろしている。話すことがうまくなったよね、茶農家の皆さんが。これが大事、ただお茶だけ作ってりゃいいわけじゃなくて、やはり売らなきゃならない。後ろにいる石山さん、頑張る農家でしょう。そのことから、何か始めなきゃいけないということがやっと、我々の同級生も先輩たちもそうですけれども、野口さんも茶茗館でいろいろいつもお会いするわけなんですけれども、もう話し方が全然変わってきちゃって。私の友人も、売るならどうするかという。そういったことの中において、これからもそうした流通販売、地道なことだかもしれませんが、茶茗館利用しながら、また呈茶、今、我々はいろんなところへ行っています。私の羅臼の友人、町長、この前も世田谷へ行ってもらったし、私自身も行っているし。そういったことの中において、どうやってこの茶産業を続けていくか、さらに伸ばしていくか。こういうことはやっぱりこれから。抹茶だけじゃないですよ。煎茶のことも本当にそういう思いの中で、今、本当に抹茶業界というのは、葉っぱが足らんぐらい。この前も、新聞で1万t。皆さんも御存じの。そのぐらいの規模の中において、茶業界の転換期だと思っています。私の町にも相藤農園さんがいて、SOMAさんがいて。こういう展開になると私も正直思っていなかったんですけれども、そういった世界流通、世界が求めること、一つの健康食品だから、そういったことの中においても、これから先、川根本町は捨てたもんじゃないですので、一生懸命私やっていきたいと思っています。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） 今日の課題の中で、いろいろ質問するけれども、今、町長言ったことに大体濃縮されているのかなとは思っております。ありがとうございます。

続きまして、農地中間管理機構関連農地整備事業について御質問をいたします。

私は、前にも一度一般質問をいたしました。下泉原地区の茶園を町民みんなに見てほしいと思っております。一言に言えば、これが川根本町の茶園かと目を見張ります。もっと町はPRをすべきで、町民または県内外の人たちに現地見学ツアー企画等観光にも活用も面白いのではないかと考えております。事業成果を知っていただきながら、農業への理解もしていただき、また、今後、西地名地区にも引き続き事業が展開されている、今後に期待します。有利な事業補助を見いだしながら、農地集約化整備事業の続行を、これからは農林業予算措置に期待いたします。町の考えを再度お聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 農地集約化事業、望んでいた事業でした、私が。正直。いつでしたか、

12月14日ですか。権利者会議、下泉原地区であったわけですが、この後、西地名地区、また皆さんも見に行っていたら、もうさま変わりですよ、農地が。だから、こうしたことの中の展開。私も若い頃、上長尾でやろうと思ったんだけど、なかなかあの頃はばらばらで。要は、何が大事だかという、やっぱりその地区の人間、それが、その人たちが一つになって、どうやって農業生産をやっていくか。そう感じました。やはり下泉原地区の皆さんがしっかり固まっている。そうしたことがないと、なかなかこの農地集約ってできない。

今後、最初は、今日は傍聴で中澤さんも来ているけれども、地名のパイロット事業、水田、あれも始まったことは確かだったんですよ。一つにならないとなかなか農地集約ってできないから、てんで自分自身のことばかりやっていたら、絶対できない。改めてそれは下泉原地区へ行って、この前の権利者会議で感じたことでありまして、これから先もそういった集約化。九州並みにはなれないかもしれないけれども、そうしたところがあるならやはり集約化どんどんやっていっていただきたいし、そこには我々も、農林事務所、土改連、いろんなことの中において協力を惜しまない。そして、農業を展開していかなくちゃいけないと私も思っていますし、ただ、個人的な農業というのも大事ですよ。品評会等いろいろありますから。そういったことの中においては、そういった集約化農業というのは、ずっと前の共同工場できた、今はちょっと少しずつこうなっちゃっているけれども、後継者もいなくて。今、大事なことは、そうした集約化することがやはり農業生産につながっていくこと。でも、それもやっぱり地域がまとまらないと、絶対できない。そこだけは議員の皆さんには言っておきますけれども、そうした思いがなかったら、なかなかああいう集約化作業ってできないですよ。でも、我々としては、そういった集約化作業というのは、協力しながら、県とも相談しながら、努めてまいりたいと思っています。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

確かに、町長の言うように、地元理解、そう言いながら、農業の取り巻く状況も大変、特にお茶は変わってきております。この陰には、やはり担当していただいた職員、当然、県もありますけれども、努力という、目に見えないところでお力を発揮したのがためにこのような立派な農地集約の方向性が出てきたと思います。

今後も、やはりどの地区も大きな課題を抱えておりますので、どうかそれぞれの地元、あるいは周りのところを見ながら、何とか少しでも今後に残る農業体制ができたらいいなと思っています。

続きまして、関連いたしますが、農家経営を圧迫している資材、農業用燃料費の高騰、人件費、運賃高騰は、規模拡大はもちろん、現状の経営の維持さえできない状況は町も把握していると思われるが、国・県に強く要望をお願いしたいと思います。町長もお話しいたしましたが、同時に、町も何らかの緊急対策が目に見える形で講じていただければと思っております。

ます。見込みを含め、お伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 過去に、農業関係の資材高騰対策、行ったことがございます。令和4年のことであります。その際は、外的要因として、新型コロナの影響を大きく受けたという背景がございます。農業の原材料の輸入の関係もございまして、特に肥料が大きく値上がりをしたという事態があつて、それに対応したという経緯がございます。

農業資材などの価格高騰につきましては、経常的なものになるのではないかと予想をしております。一時的な支援策を講じるよりは、収入のほうを増加させる方策に注力をしたい、そうすべきであるというふうに考えております。

一方で、国・県、それから関係機関、努力をしております、例えば収入保険、例えばJAが絡んでいるセーフティーネット、そういったセーフティーネット系の方策も整備をされてきております。従前に比べて、農業経営の安定化は図られているというふうに承知をしております。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

大体、今課長がお話しさせていただいた件は非常に分かるんですが、やはり農家がもう瀬戸際になっている方もあるということは、お互いに承知はしていただいているとは思いますが、やはりなかなか後継者不足、後にも先にも述べたとは思いますが、その中で、少しの手を差し伸べたら頑張れるな、だけれども、それが頑張って何年続いて、それが果たしていいのかわからないような状況でもあることも事実だと思いますので、そこら辺、今の答弁を聞きながら、私も今後勉強をしていきたいと思えます。

続きまして、先ほども答弁いただきましたが、JAと町の関わりについてを質問いたします。

町はJAに対して、もう少し地域に合った農協改革を求めることを要望してはいいのではないかと。例えば今、茶共同工場の存続は危機的状況に立たされている。基幹産業の茶業の衰退はもちろん、各集落の維持管理にも影響し、さらに、荒廃農地も増える可能性もあり、集落の治安防犯上からも心配です。強いて言えば、過疎化・人口減少にもつながります。そこで、JAに登場してもらい、困っている今こそ茶工場を引き受け、荒茶直営工場を運営して再建してもらおう。そこには、総合農協の強みを生かして、地域貢献をしていただきたい。町長の言う民間の活力の導入に当たるのではないのでしょうか。

少しづれですが、近頃の行政は、民間の一企業には手を出さない原則を言いつつも、少しづつ、私は、町民の暮らしの豊かさを口実に崩れてきているのではないかと感じております。

本題に戻ります。資金面も含め町は、JAと今後どのような形で連携協力して農家に対して支援をされていくのか。また、これから町はJAにどんなところを期待するか。先ほど、町長も答弁をいただきましたが、再度お聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） 私自身も、JAの経営側にいたことは御存じだと思うんですけども、そうした中で、野口議員の気持ちも分かるところで、実に歯がゆい思いをしながらあの頃理事をやっていたなという。買取りからあっせん、もう聞こえるように言っているんだけども。あれも、本当にあっせんあっせん私来たんですけども、大きい組織になっちゃったから、なかなかつながらなくて、よく経営陣とぶつかり合いもしたんですが、なかなかこっちの人間も分かっていただけなくて、私のやっていることが。あの頃は随分私自身も、自分でお茶をもんでいて、みんなが来たから、何やっているんだ、菌田と言われ、こっちはこっちで一生懸命やっているところはあったんですけども、組織というのは、やっぱりそういうところの中において、先ほど言いましたけれども、私も当時、歯がゆさを感じていました。

その中において、やはりJAという本分をダイレクトに我々につながる場所はあるし、金融があって、共済があって、その中において、私のところのワンストップサービスができる団体ですよ。そうしたために農業協同組合が先人がつくったんだろうし、あれだけ大きくなっちゃっていますから、JAというか、農協自体が。その中において、我々が今度どういうつながりができるか、行政とJAと。今年も、お茶の関係じゃないですけども、JA経済連、そういった方々とちょっとしたことがあるもんですから、行っていただきました。そういった中で、JAと町の上部につながるというのは、決して離れているわけでもないし、これから先もいろんな思いの中で、JAがやはりそばにいないとなかなかできない分補助もできないところもあるし、町とJAといろいろ2つ組んで補助をやったときもありますので、そうしたことの中において、これから先はそれぞれの具体的行動につながるように、さらに、こういった時期ですから、JAさんにもっとハッパをかけてやってもらわなきゃいけないこと幾つもありますので、そういった意味の中で、そんな協力体制の中でこれから先も、議員おっしゃるとおり、進めていかなければならない、そんなふうに思っています。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

やはり、私も農業をやって、もう終活に近い状態になってきまして、年寄りが余計ガーン言いたいというのは、やはり今町長が言うように、農家があってJA、またJAがあって農家、そこら辺が非常に鶏と卵ではありませんが、いつも葛藤して私も考えております。

ただ、今、私が一番言いたいことは、農協がやはりできた物に対して販売してやるのか、そういう話ではなくて、農家がやはり資金面でも苦しい中において、例えば、作物の加工施設を俺たちJAがつくるで、それをみんなで農家が利用してくれと、もうちょっとその積極的な、先ほど、果敢とは言ったんですが、やはり私はほかの農協さんを見ると、やはり自分も腹を痛めているようなお金を出しているなという事例を、ちょっと私なりに考えたり勉強もしているつもりです。やはり町長も心配していただいているように、遠くで眺めて、さあ、

何かの結果が出たら食いつくよ、ごめんなさい、川根弁だか標準語だか分かりませんが。そういうふうなやっぱりJAではあってはならないと思うし、あってはほしくないためとあえてJAを批判したりすると。確かに町長が言うように、あの品評会といろいろな営農指導、また経済指導は大変よくやっていただいて、個人個人、職員を云々責めるじゃないですけども、やはり経営感覚をJAとペアでありませんが、経営感覚をもう少し一歩前へ進んで農家と歩んでいただくということで、今までのことをお話ししました。

また、次の質問もJAに絡みますが、これはある程度もうお答えいただいたのですが、やっぱり言わせていただきます。

日々、茶業界も変化している中で、川根本町茶業振興協議会の有力のメンバーのJAは、この協議会においてどのような立ち位置にいるのか、私には見えてきません。町と一緒にどのような活動をしているのかを含め、行政がこの会の事務局と聞いているので、お聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 茶業振興会事業は、町と大井川農協が資金をまず拠出して、その資金により運営をしている団体であります。この茶業振興協議会ですけれども、構成員として、茶業組合、農業経営振興会、農協の自園自製部会、そういった茶業団体が加盟しているという成り立ちです。農協とは、茶振興事業の企画立案の段階、事務局と役場の事務局の主な相談先であります。また、事業実施に当たっては、人員を出役していただく、そういった細かな協力関係もございます。

そうして、役場職員は異動がありまして、なかなか専門職員がいない。一方で、大井川農協には専門的な技術も持った指導員がいるということで、極めて頼りにして、一緒に盛り立てている、そういった関係がございます。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） 分かりました。

今のお話でいきますと、大切なパートナーだということは少し理解いたしましたので、今後も共有しながらやっていただきたいと思います。

続きまして、将来に向け、農業法人化を進めてほしいということの質問の中から、これからも農業経営は組織化をさらに進めていく必要があるとは考えます。外部からの参入、担い手育成も含め、現在の組織化の進捗状況をお聞きいたします。進めるに当たって、社員の人手不足と何か課題があるのかを教えてほしいと思っております。再度お聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 近年、個人農家が、先ほど町長の答弁にもございましたけれども、個人農家が法人となったり、土木建設事業者が母体となって、新たに農業を営む法人を立ち上げたり、こういったものがございます。あるいは、町外の農業法人の進出相談、これも年数件でありますけれども、受けてきている、そういった例もございます。

これらは、それぞれの経営体が経営判断をしているというところがございます。これからの地域農業をイメージすれば、先ほどの農地集約化、団地化、そういったこともございますけれども、一定規模で経営される農業体、これは必要なセクターだろうというふうに思っております。その中では、経営責任が明確な農業法人、これも大事なところがございます。担い手となっていくことでしょうか。そういった様々な経営体の経営セクターがあるというところが一つの地域農業のありようではないかと思っております。

課題についてですけれども、相談を受けたり、今経営している農業法人の内容を見てみますと、ケース・バイ・ケースです。ですので、そういった逐一の相談に乗りながら、JAとともに対応していく、そういうところがございます。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

今課長がおっしゃっていただいたように、やはりこれから、やはり農家ができないけれども、法人化した人たちに任せるにしても、今おっしゃっていただいたように、経営感覚が優れていて、経営責任があって、ある地区の例を出したら悪いんですが、ちょっと茶工場がなくなって、新しい作物を導入して、皆さんも期待して東京から来ていただいた人たちですが、もうまた何らかの理由というか、要は、農業ができなくて撤退したんですが、その後に残った人たちは、もう農地を返されても本当に困っていると、そういう例を含みながら、今課長が言っていただくように、やはり経営の強化もお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

続きまして、川根茶の販売促進についてでございます。

地元茶商（川根茶業組合）と会合を定期的開催していることは、以前の一般質問でも答弁させていただいたが、双方で新しい販売戦略は示されてきているのかを含めて、対策等も含めて、再度お伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 静岡県、県の施策でありますけれども、令和7年度から静岡茶ブランディングプロジェクトが始まっております。まず、町としましては、この動向に注視をして、川根茶産地としての取組も構築していく必要があるだろうというふうに考えております。イメージとしては、そういうイメージです。

茶振協においては、茶商、農協、販売茶農家が流通販売をしやすい環境を整え、ここが本務だというふうに考えて、それぞれの皆さんが具体的な活動ができるよう支援をしております。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

続きまして、令和4年度12月定例会の答弁において、町長をはじめ、農林課の当時鈴木課長がこれまでにない商流で新しい需要先を開拓していく日本茶飲食店、ホテルにメニュー化

を提案開拓、また、ティーパック・ペットボトル等商材を多様化して売り込む、その目的達成のためにも、5年度から農林課から産業振興課に機構改革をしたと思います。大変な事柄ではあり、地道に継続している流通販売は承知しておりますが、中長期的に第6次化をも含め、関東圏への川根茶の売り込み、PR状況、またスポーツイベントを含め、現状成果につながる実例があるのか、消費拡大の道筋は開けてきたのか、来年度具体的な販売促進事業は立ち上げるのかを重ねてお聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 成果についても、今、御質問がございました。

手応えを感じているレベルでありますけれども、先ほど町長の答弁にありましたように、まずフォーレなかかわね茶茗館で定例になった川根茶を楽しむ会については、人数的なこともさることながら、出店者の販売スキルが上がってきているということがございます。この販売スキルの向上は、全国どこへ行っても販売活動ができるようになってきているということでありまして、この次の出店の際には、自分なりに反省をして、次の出店の工夫をするという、そういった状況も見てとっております。

また、町内3か所にあるティーテラス、これについても、一定の誘客を実現しております。中でも、1か所につきましては、年間1,200名程度の海外からのお客様を受け入れている、そういった例も出てきております。

このような販売現場、接客、そういった今の状況を軸に、幅広い広報宣伝、販売活動が展開できる道筋が今ようやく見えてきたというところまで来たというところが私としての感覚であります。

茶振協といたしましては、首都圏や静岡市中、そういったところで活動ができる拠点を模索しております。また、その現場で連携できる方、連携できる協力者、そういったところもあたりをつけてきているところでございます。

中でも、具体的には、陶磁器生産地、そこの協力体制を今構築しようとしております。

新しい効果的な活動の場を茶業関係者の皆様に御提案・御提供できるよう努力をいたします。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

私は、この質問しただけけれども、今、課長の答弁で、非常に私は感銘というか、やっぱり5年の間に町長が行っただけえが、ある程度やっぱり農家の意識も変わってきて、また、お茶屋さんもそれも刺激されて、共に頑張っていかなといけないなということを感じております。とにかく、私は型どおりの質問をしたつもりだけれども、これだけの答弁をいただければ、私があしたからばら色の茶業界じゃないということは、町長も私も分かっておりますので、そういう、くどくなりますが、少しずつの努力、手応え、それが必ず将来の川根茶の生きる道の中に残るんじゃないかなと思いますので、ぜひ今後とも頑張ってくださいと思っています。

○議長（澤西省司君） 町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） 本当ありがたいお言葉をいただいて、私も野口さんも努力してきた成果が上がったなという、この4年、町長を引き受けてから、やはり生産家ですので、私も。いろんな手だて、茶茗館の利用方法とか、あと呈茶とか、冒頭申しましたけれども、本当にみんながそういった商い上手になってきたというか、自分ら下手くそでしょう、野口さんも私も。ただ、技術でお茶でもんでどうのこうの、そのぐらいのことしかやってきていないんだけど、やはり商いというのは、しゃべらなきゃいけない。そうして呈茶して、どこの研修へ行っても、この前も奈良の全国茶品評会へ行っていたんですけども、そのときも議長も一緒だったんだけど、やはり話がお上手。やっぱりそうして御商売なさっているから、だんだんみんながそういうふうになってきたんだよね。そういった意味においても、私らももっともっと若い頃そういったところへ出ていて、お茶を売ったりいろいろしていることがやれていたら、もう少しましな茶生産家になっていたのかもしれないけれども、今、そういう状況ですので、野口議員が言葉を言っていたんですけども、これからもそれはやはり皆さんと一緒に、私もトップセールスとか行くところには行きますし、そういったことの中において、なかなかぎやかになってきたなという、この4年間で、茶業界のほうも。それはうれしく思っているところです。また一生懸命やっていきましょう、二人でも。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） すみません、いつもこういうパターンになって申し訳ないですが、何か個人的なお話のようで、申し訳ございません。

ただやはり、本当に前向きというか、少しでも、先ほども冒頭に言ったんですが、抹茶がああいう傾向になって、なおかつ、またそれが煎茶にとか、農家の経営体制まで引っ張っていけるようなことが少しずつ動き回ってきたなということは、私もうれしいし、私も5年前頑張るって言ったっけ、どうもあと1年でお別れになるんですけども、ただ先ほど言ったように、道筋というか、方向性がこの町にできれば、どんな人がお茶をやってくれたって生き残っていけるような気がしますので、いつものように私のこのなあなあ言葉で悪いんですが、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

機械長寿対策の続行ということで、質問いたします。

令和4年の6月定例会において、石山議員、私の提案と町長の思いが一致した経過がある。この事業は有効に活用されている。また、担当者も何回にも分けて申請を受け付けてくれて、対応もよかった。農業関連事業の中で、町独自の予算づけ事業はありがたいが、利用されている方がこれに対して継続の要望等を行政に出されたのか。今年度も12月の補正予算でも追加支援された。町は、利用度をもって事業が評価されたと考えたのか、継続に向けどのような考えをお持ちか、くどいですが、またお聞きいたします。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 今、製茶機械長寿命化対策について再質問を受けておりますけれども、先ほど、抹茶と煎茶の話が出ました。抹茶については、町長答弁にもあったように、サプライチェーンでいきます。ですので、自身で販売をする、自身が販売を実感するというような形ではなく、一方で、煎茶につきましては、自身で販売ができる、そういった作目であるというふうに感じております。ですので、ちょっと農業経営の形態としては異なりますけれども、それが両方ある産地、これが川根茶の強みになっていくだろうというふうに考えておるところでございます。

話戻りますけれども、今の製茶機械長寿命化の事業でありますけれども、町としましては、まず野口議員をはじめとする議員各位から強い要望を受けて、茶の生産基盤である製茶機械の維持を目的に、製茶機械の修繕を手段とした事業でございます。令和4年度から令和7年度までの3か年を緊急対策というふうに位置づけて、実施をしました。令和7年度の事業執行に当たりましては、緊急対策の段階をまず完結させ、そのためにこの前の補正予算で予算措置もしていただいたという経緯がございます。

なお、この3年間の実施中から、農業者は3年間の事業であるということを承知しておりますので、続けてくれないかというような要望を直接数件受けてきております。町としましては、令和7年度の3か年の緊急対策を終了し、令和8年度からは、新しいコンセプトの製茶機械長寿命化事業を予算化するよう努力しております。

○議長（澤西省司君） 8番、野口直次君。

○8番（野口直次君） ありがとうございます。

利用度ということも大変失礼な言い方もしたんですが、やはり今課長や町長が言ったように、利用している人たちの声がやはり一部は出てきたというけれども、私はもうちょっと、議会にも責任があるんですが、やはりこの事業はよかったつけよ、この事業はもうちょっと改善したらどうだという声をこの持っていかんと、なかなか行政の皆さん、これから事業をするや予算づけするのは大変だと思いますので、今、私は農業のことだけを質問しておりますけれども、やはり町民、その働いている人たちの声はやはり行政、議会に届けるということ、事業者を含めてみんなで全体で初歩的なことだとは思いますが、再度考えていく必要があるなということ、今の答弁から感じました。いい勉強をさせていただいております。

最後になります。答弁は要りません。自分のあれだけ言って、いつものように帰りますので、よろしく申し上げます。

厳しい予算編成の中においても、町の基幹産業である農林業が活性化することにより、新しい展開も予想されます。少し始まってきている観光と農林業、そこに商工業が加わり、今以上に手を結ぶ多くの体験型の催しが育成されることを期待しております。一日でも早く茶畑にS Lが戻るよう祈願して、私の一般質問を終わります。今日は本当にありがとうございました。

○議長（澤西省司君） これで野口直次君の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩いたします。再開は10時15分といたします。

休憩 午前10時00分

再開 午前10時15分

○議長（澤西省司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

2番、爾見淳芳君、発言を許します。2番、爾見淳芳君。

○2番（爾見淳芳君） 皆さん、おはようございます。2番の爾見淳芳でございます。

師走でございます。師走の師とは、僧侶のことを意味します、文字どおり、私もお寺の檀務、また町議と、日々充実させた生活を送らせていただいております。

本日は装いが違いますが、髪型は一緒なので、リラックスして、一年生議員ですので元気よく一般質問していきたいと思っておりますので、皆さんよろしく願いいたします。

それでは通告どおり質問させていただきます。

この問題は私たち子育て世代、この町に住み、町外の学校へ進学する学生、町内に住む高齢者、中・高学生、移動制約者にとって、とても重要なことだと私は考えております。それでは本題に移らせていただきます。

学生、就業者、高齢者の近隣市町への移動手段の確保について、2点ほど質問させていただきます。

（1）過疎地域であり高齢者が多い本町において、公共交通の確保が課題となっている。現在、通学、通勤、高齢者等の通院等の不便を理由に、他の市町への転出が後を絶ちません。大井川鐵道が全線復旧されてない今、町として現状をどう捉えているのか、また何か対策を講じる考えはないのか伺います。

（2）町民のために島田市の主要箇所、例えば島田駅、島田市立総合医療センターへの通学、通勤、通院の路線バス運行などの交通支援を町として実施する考えはないのか伺いたしたいと思います。

壇上からは以上でございます。よろしく願いいたします。

○議長（澤西省司君） ただいまの爾見淳芳君の質問に対し、町長の答弁を求めます。

町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） それでは、爾見議員の質問にお答えをさせていただきます。

まず1つ目の町内の公共交通の現状と対策についてお答えします。

本年度、令和7年10月に、町では地域公共交通計画を策定し、基本理念を、これが大事なんですが、「暮らしとまちづくりをみんなで支える持続可能な公共交通サービス」と定めました。

本計画の作成に当たりましては、まず町の現状と課題を整理した上で、川根本町地域公共

交通会議委員及び川根本町バス路線対策委員会委員の皆様から御意見を賜わるとともに、各種のアンケート調査や住民ワークショップを実施し、町民の皆様の御意見を伺ってまいりました。

その結果を踏まえて、「町外交通の維持」、「町内交通の充実」、「交通・まちづくりの連携」、「公共交通の利用促進」の4つの施策をまとめ、対策を構想することとしております。

この施策を総合的に推進することで、町民の生活利便性の確保と持続可能な公共交通体系の構築を図ってまいりたいと思っております。

2つ目の島田市の主要箇所への路線バス運行などの交通支援についてお答えします。

公共交通の運行区域を町外に拡大するには、国土交通省中部運輸局静岡運輸支局、関係自治体、そしてバス・タクシー事業者との協議が必要です。ここが大事なんです。ここを苦勞してずっと今まで来たということです。先人の職員の皆さんもそうだし、我々もそういった意味の中で、もう何十年も前になるんですけども、この福祉タクシー1つやるにしても、今の業者と話をして、いろんな関係団体おりますから、なかなか隣の町へ行けなかった。そういった事実もあります。

拡大に当たっては、町として新たな財政負担が発生する可能性もあります。加えて、全国的な運転手不足という大きな課題があり、当町でも運転手の確保が難しい状況にあります。

以上の現状を踏まえ、当面は現行の運行体制を維持しつつ、町外への乗り継ぎ時間の調整などによりサービス向上を図ってまいります。

同時に、運転手確保や費用負担などの課題を整理した上で、関係機関と十分に協議を進め、実現可能な方策を検討してまいりたいと思います。

○議長（澤西省司君） 再発言を許します。2番、爾見淳芳君。

○2番（爾見淳芳君） 御答弁ありがとうございます。

再質問でございます。

今、町長から、町外への交通手段を維持すること、町内の交通を充実させること、交通とまちづくりを連携させること、公共交通の利用を促進するための施策をまとめて対策を行うという答弁がありました。その中で、「町外交通の維持」と言われましたが、どのような施策かお伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 暮らし環境課長、風間一章君。

○暮らし環境課長（風間一章君） それでは、お答えさせていただきます。

今、大井川鐵道の復旧に向けた支援を行い、復旧後は鐵道の使いやすさをさらに高めます。町営バスは、当面は運行を続ける方針で、復旧後にサービスの在り方を見直すことを検討します。また、より広い範囲で使える新しい交通手段、具体的には、公共ライドシェアなどについても研究してまいります。

以上です。

○議長（澤西省司君） 2番、爾見淳芳君。

○2番（爾見淳芳君） 御答弁ありがとうございます。

次に、川根本町地域公共交通計画の計画目標達成に向けた施策及び事業の中で、5つの施策を伺いました。特に、施策1の「町外交通の維持」の復旧に進める次の3つについて、「大井川鐵道の利便性向上」、「町営バスの見直し検討」、「新たな広域交通の研究」の取組の概要を教えてくださいたいと思います。

○議長（澤西省司君） 暮らし環境課長、風間一章君。

○暮らし環境課長（風間一章君） それでは、お答えさせていただきます。

まずは、「大井川鐵道の利便性向上」についてでございます。

町民が大井川鐵道をもっと利用しやすくなる制度につきましては、財政状況を見ながら慎重に検討していきます。また、本線の各駅にアクセスしやすくなるよう調整していきます。

次に「町営バスの見直し」についてでございます。

大井川鐵道と町営バスのサービスが重なってしまう部分につきましては、町と交通事業者との間で話し合いを行い、それぞれの役割をはっきりさせた上で、町営バスの在り方の見直しを行います。

最後に、「新たな広域交通の研究」についてです。

町外への移動を便利にする事例を集め、本町で導入できるかどうか整理します。必要があれば、実際の導入事例を視察することも検討していきます。

以上です。

○議長（澤西省司君） 爾見淳芳君。

○2番（爾見淳芳君） 大井川鐵道さんに通学、通勤、通院、JR金谷駅での東海道線へのアクセスへの利便性があるダイヤを要望できるでしょうか。

○議長（澤西省司君） 暮らし環境課長、風間一章君。

○暮らし環境課長（風間一章君） 現在もダイヤ改正のときには、大井川鐵道さんと協議をさせてもらっております。

引き続き、大井川鐵道さんには、うまくこのダイヤの利便性ですね、うまくつながりあるか、できる限りの要望は行っていきます。

以上です。

○議長（澤西省司君） 爾見淳芳君。

○2番（爾見淳芳君） ありがとうございます。

本当に大井川鐵道は、この本町住民におきまして大切な公共機関でございます。町民の生活に沿ったダイヤを強く要望をよろしくお願い申し上げます。

続きまして、次の質問にさせていただきます。

現在、大井川鐵道が不通にて町営バスが家山まで運行しておりますが、大井川鐵道復旧後、町営バス千頭家山線の運行見直しは検討されていますか。お伺いたします。

○議長（澤西省司君） 暮らし環境課長、風間一章君。

○**くらし環境課長（風間一章君）** 先ほどの答弁と重なるところもございますが。大井川鐵道の復旧後は、大井川鐵道と町営バスのサービスが競合してしまうために、町と交通事業者で協議を行い、それぞれが担うべき役割を明確にし、はっきりとした上で町営バスの見直しを行ってまいります。

以上です。

○**議長（澤西省司君）** 町長、藺田靖邦君。

○**町長（藺田靖邦君）** 議員、今はこういう状況の中でやる、JRのダイヤが変わればまた大井川鐵道も変わってくるし、だから今はこういう状況の中で家山まで行っているということ。今後、どういう対応なのか迫られると、競合しちゃいけないから。大鉄アドバンス、大鐵でしょう。その中において、また出すというのはおかしい。だから、いろんな意味の中において、今後の対応でいろんな話があると思うし、先ほどの金谷までのアクセスとか、そういったことは話合いの中でできると思う。箱電があって、SLがあって、トーマスがある。そういったことの中において、箱電で分かりますか。普通の電車のこと。

（「電車」の声あり）

○**町長（藺田靖邦君）** うん。その中において、やっぱり通勤というのは大事なところもありますので、そういったことはやはり大鐵の關係の皆さんと話をしながら、今後の対応、10年以降どうなってくるか、その話の中で進めていかなきゃならないなと思っています。だから、今の状況の中では大鐵がこういう状況だから家山まで利便性を高めるために動いているということですので、今後の対応というのはやはり変わってくる、10年後以降ね。

○**議長（澤西省司君）** 爾見淳芳君。

○**2番（爾見淳芳君）** 御答弁ありがとうございます。

それでは、これは答弁要りませんので、私の気持ちを言わせていただきたいと思います。公共交通の運行区域を町外に拡大するには、町長が答弁してくださいましたように、対外的な協議が大変多くあって、大変であるということが分かりました。私は、くらし環境課さんが令和8年より施行される川根本町地域公共交通計画において、大変真摯に取り組んでいただいているというのも分かっております。本町では移住者政策を手厚くしていますが、この本町に両親共々住み、子育てをしていただいている町民に対して、優先的に子育てまた高齢者政策を行っていただきたいと町には思っております。引き続き御尽力をお願いいたします。また、町外への移動の導入事例をぜひとも視察していただき、移動制約者のサービス向上に連携し、他の市町とともに島田市主要箇所へのアクセスを充実するための交渉、サービス継続可能な料金設定など、引き続き御尽力お願いをよろしくお願いいたします。

私も令和8年からこの政策には大変注目しておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

以上でございます。ありがとうございました。

一般質問を終わります。

○議長（澤西省司君） これで爾見淳芳君の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩いたします。再開は10時40分ということにいたします。

では、休憩に入ります。

休憩 午前10時29分

再開 午前10時43分

○議長（澤西省司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

なお、申合せの規定に基づき資料の配付を許可しましたので、お手元に説明資料をお配りしてあります。

7番、石山貴美夫君、発言を許します。7番、石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） 7番、石山貴美夫です。

一年が過ぎ去るのは、一段と早くなりました。師走となって今日はもう18日という、今年も残り僅かでございます。令和7年、2025年という年は、我がまちは選挙の年で、町長、議員ともにさきの10月5日の選挙で新たに選出されました。町長、議会ともに町民からそれぞれ直接選挙で選ばれ、町政を4年間付託された菌田町長、その町政を監視する二元代表制の議会議員として、今期からは10名が選ばれました。

前の4年間は、議員にとってスタートから厳しい状況でした。4年前の町議会議員選挙は12名の定数で、選挙前は十四、五名の立候補の予定の情報が流れておりました。私も真剣にポスターを作り、講演会しおりを作りと、準備を万端に臨みました。しかし、告示日当日、辞退された方がおられ、定数のみの立候補指数となり、選挙運動初日の夕方、選挙カーを走らせお願いをしていた最中に車に知らされたそのときのことは、なんとも言えないむなしさと、これでいいのかという複雑な思いで、車の中がシーンと静まりかえったことを昨日のことのように思い出します。

それからが大変でした。誰が何を主張しているのか、どこの誰が議員になったのか、全く分からないなど多くの非難、苦情。当時の新聞紙にも、非常に厳しい論調の記事が掲載されました。まもなく町内の区長会から議長宛て、議会に対する不信と議会改革の意見・要望が提出され、議会は即時に議員発議で議員定数等検討特別委員会を発足し、私はその委員長として約2年間議論を尽くし、県下の同規模の町議会との情報交換を重ね、何度か中間報告、区長会の報告、議会報告会をさせていただき、区長役員の皆様からも非常に厳しく、時には激しい御意見を直接賜りました。そうした末、議員定数を10名に減らし、今年10月の議会議員選挙となりました。御承知のとおりです。この選挙の結果、10名の議員が議場にそろっております。やはり少なくなったなど実感しております。

まちは、旧本川根町と中川根町が20年前、平成17年9月に合併しました。当時議員は14名、

その後、平成20年に12名に減らし、そして2名減し、合併して20年で議員数は4名減の10名となったのです。もうこれ以上は減らせないところまで来たと思います。議会は、このような身を切る改革をしてきました。町長も議会のこのような動向を把握していただいたと思います。後半2年間、私は議長として議会事務局に支えられ、多くの関係の皆様のお協力をいただいて役を果たさせていただきましたが、この10月からは、新体制の下、少数議員となり、澤西議長の下、全てに可能な限り全員体制で対応していかなくてはならない状況となっております。私は、今期、議会選出の監査委員という役をいただき、過去の例から監査委員の一般質問はあまり例がないようでしたが、少数議員でもあり、質問者も限られているのではと予想し、今回は質問に立たせていただくことといたしました。

では、通告に従い質問させていただきます。

1、菌田町長は、1期4年間町政を担われ、その結果、成果をどう総括されるのか伺います。

質問の要旨として、町長は1期4年を振り返り、当初に挙げた公約を踏まえ、どのような結果、成果を出されたのか。やり残したことはなかったか、総括を伺います。

質問の2、再選を果たされ、2期目を担っていただくこととなりましたが、今後どのような政策を実行し、町政を進められるのか。4年後のこのまちのどのような姿、状況を思い描いておられるのか、町長のお考えと決意を伺います。

趣旨としまして、1、町長は1期目の総括を踏まえ、どのような課題が残されたのか。それをどう認識されているのか。それを、また2期目に具体的にどのような政策として打ち出されるのか。中でも特に4年間で必ず成し遂げたいということは何か伺います。

2番目、町長は町の財政状況をどう捉えているのか。今後の財源の問題を具体的にどう考えているのか。収入をどう見ているのか。どのような見通しで進めているのか伺います。

3番目、町長は、この一年、まちの合併20周年記念事業を種々実施されましたが、まちは2町合併から新町建設計画と銘打って計画をつくり、20年間進めてきました。20年の節目の町長として、20年を総括し、計画していたようなまちになったのか伺います。

4番目、町長は、「この4年間でハード整備を終え」と講演会しおりや議会だよりで書かれていますが、ハード整備として完了したことは何なのか、完了できなかったことは何かを伺います。

5番目、義務教育学校もスタートし、2年目2学期が経過していますが、部活動が課題となっております。部活動を今後どのような方向に進めていかれるのかを伺います。

以上壇上から質問をお願いし、質問席に移動いたします。

○議長（澤西省司君） ただいまの石山貴美夫君の質問に対し、町長の答弁を求めます。町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） それでは、石山議員の質問にお答えさせていただきます。

まず、一つ目の1期4年を振り返り、どのような成果を出し、やり残したことは何かに

ついて、お答えさせていただきます。

1期目の4年間は、新型コロナの影響や台風第15号による甚大な被害など、厳しい局面が続きましたが、全庁を挙げて町民生活の維持と持続可能なまちづくりに取り組んでまいりました。1期目は、移住・定住促進、主要産業の活性化、安心・安全未来を公約に掲げ、移住・定住相談窓口の一本化による支援の実施、産地賞を受賞するなど川根茶のブランディング、地域一丸で進める防災訓練の充実、移動販売や外出支援による福祉の充実、将来につながるICT、IoT教育の充実を実現しました。一方で、新町建設計画に合わせて急ピッチでハードの整備を進めるとともに、令和4年の台風第15号による災害の復旧に注力してきたため、川根本町の自然・文化・歴史を戦略的に情報発信するなどソフト面での取組や、議会や町民との対話が不十分でした。今期は、町民の皆様とともに未来を創造し、このまちをさらに魅力的な場所となるよう推進してまいります。

2番目の一つ目です。1期目の課題を基にどのような施策を打ち出し、中でも4年間で必ず成し遂げたいことについて、お答えします。

課題は多岐にわたります。私が選挙に出るときに、安心安全な暮らし、人口減少、地域活性化対策、子育て教育、産業の創意工夫、財政健全化、そういったことをうたって選挙戦に臨んだわけですが、中でもやはり優先的に取り組むべきは、産業の創意・工夫と財政健全化であると認識しております。産業の創意・工夫では、銘茶川根茶の煎茶と抹茶を両輪とした、先ほどの質問でも野口議員にお答えしましたが、グローバルな展開、川根本町ならではの自然・文化・歴史を生かした観光のさらなる推進などに取り組んでまいります。また、財政健全化を堅持しつつ、優先順位を明確にした戦略的また受動的投資を考え進めてまいりたい。これにより、町民一人一人が安心して暮らせる持続的な幸せの実現を目指してまいります。

二つ目です。今後の財政状況について、お答えします。

議員も御承知のとおり、当町は人口減少が進行しております。これは我が国全体の傾向であり本町のみの問題ではありませんが、人口が減少すれば町税収入は減少し、地方交付税をはじめとする財源にも影響が及ぶことが懸念されます。この質問、2-1にも優先的取組として財政健全化を挙げておりますが、将来にわたって大幅な歳入の増加が見込めない状況においては、限られた財源を効率的に活用していく必要があります。今後は、やるべき事業は着実に実施しつつも、財政規模をまちの実情に見合ったものとするため、既存事業の見直しや公共施設の管理方法の見直しを中心に、歳出削減に取り組んでまいります。併せて、ふるさと納税などによる新たな財源確保の取組を強化するとともに、有利な地方債の積極的な活用によって財政負担の平準化を図り、将来にわたり持続可能な財政運営を目指して調整してまいります。

三つ目です。節目の町長として、20年間を総括し、計画していたようなまちになったのかについて、お答えします。

合併して20年がたち、このまちは大きく変化したと感じております。高度情報基盤整備が進み、町内全域に光ファイバーが敷設されました。消防・救急についても静岡市消防局の広域化になるなど、小規模なまちでありながら様々な施策に取り組んでまいりました。一方で、直近では、3年前の令和4年9月に発生した台風第15号で甚大な被害を受け、皆様も御承知のとおり、大井川鐵道の町内区間は今なお復旧しておりません。合併から20年間、様々な出来事を経て大きく変化しましたが、先人たちの立てた計画におおむね沿って現在の川根本町があると認識しているところであります。

四つ目です。ハード整備として完了したもの、また完了できなかったことについて、お答えします。

学校再編、令和6年4月開校、斎場施設及びし尿中継設備の生活環境整備は、新町建設計画の重点事業として合併特例債を財源に優先的に執行しており、令和7年度末までに完了する見込みであります。また、これも一方では、国道、県道——生活道です、あと林道、農道といった交通基盤整備については依然として課題が残っており、令和4年台風第15号等による被災箇所の復旧事業は、災害復旧事業債を活用して優先的に進めてきたことは議員御承知だと思います。今後は、有利な起債や各種補助を的確に活用するとともに、財政規模や緊急性を総合的に勘案し、町民生活に直結する事業を優先して、着実に実施してまいりたいと思っております。

2-5の部活動を今後どのような方向に進めていくのかについては、教育長よりお答えさせていただきます。

○議長（澤西省司君） 教育長、石原一則君。

○教育長（石原一則君） それでは、部活動を今後どのような方向で進めていくのかについて、お答えします。

全国の自治体で中学校の部活動の地域展開に向けた取組が進められており、マンパワーの確保をはじめ、様々な課題も出てきております。当町では、令和5年から、国の方針に基づいて、学校、児童・生徒、保護者に加え、町内の企業やスポーツ・文化団体とも継続的に協議を行い、令和8年度から本格的に中学校部活動を地域展開できるような準備を進めてまいりました。当町の取組としては、これまで教員が顧問として指導していた野球やサッカーの部活動については、町が任用する部活動指導員による活動を本格的に実施します。令和8年度からは、児童・生徒が多様なスポーツや文化活動に親しむため、地域の団体等に委託して行う総合型地域クラブ活動を展開する予定です。

総合型地域クラブについては、国・県の補助を受けつつ実証事業として進める段階に今来ております。参加する児童・生徒のニーズや保護者の要望を踏まえ、運営方法等を改善しながら、児童・生徒が心身ともに健全に育つことができる活動の場として、川根本町型の地域クラブ活動を構築してまいります。

以上です。

○議長（澤西省司君） 再質問を許します。

7番、石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） それでは、再質問させていただきます。

1の関連で、この4年間、議会といたしましても、先ほど壇上で申し上げましたとおり、国会のほうでは議員定数はなかなか身を切るということができないようですけども、我々は、身を切り、議員数を減らし改革してまいりました。町長は、議会議員の経験をされた後に町長になられました。これまで議会の対応を見ていただいて、何か思いがあるかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（澤西省司君） 町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） 冒頭申しましたけれども、本当にこの4年間というのは、議員時代も振り返りまして、ここにおられる野口議員、中原議員、石山議員、佐々木議員はよく御存じ。いろんな派閥的なところもあったし、その中においておいて、すごくやりにくかった。私自身がそうでしたけれども、その中においておいて、議員もそうだろうし、まちをよくしたいという気持ちは変わらないと思います、皆さんが。私自身もそうだったし、その中において、いずれにしてもこの4年間というのは、ハイピッチでやらなければならないこともあったし、議員各位の御協力もあって何とかなっただけですけども、本当に4年間というのは精いっぱい。正直私としても日々悶々としたときもありましたし、最初から、学校再編もそうだったし、とにかく私の政、政治というのは、道義、道理、正義です。正義がなかったらこんなことはやっていられない。そういった思いの中で4年間あったものですから、今後は、本当に議員の10人の皆さんと対話しながらやっていきたい。まだ承ったばかりですので、町長を、正直、私の中では。この4年間の忙しさで。そういったことの中において、どうやってまちづくりを進めていくか。この後いろんな公共事業の問題も出てくると思うんですけども、しっかりそういったことを承りながら、皆さんとともに、皆さんの御意見を賜りながらまた進めていきたいと思っております。

○議長（澤西省司君） 7番、石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。非常に期待させていただきたいと思います。

2番目の質問に移らせていただきます。

(2)に関連しまして、東京都以外は、日本中の自治体の大きな課題は、先ほどからお話が出ていますように人口減の問題でございます。基本的に東京一極集中という国策が変わらない限り、根本的な解決はないのではないかと思います。町長は、この問題には引き続き定住・移住促進ということで対応されるとお考えです。現状傾向を見ると、県内移住希望が多いのは、県東部地区のような東京までの通勤時間に有利な地域、そして県西部のように多くの企業が存在して、働く場所、働き方の選択肢の多い地域です。県中部、特に山間地は厳しい状況となっています。関係人口、二拠点居住など、あの手この手の工夫もされていますが、厳しいのは当然のことで、条件がよければ地元の若者もこのまちを出ることもないし、

一旦出てもUターンして帰ってきてくれるはずですが、それができない理由、条件があるということでございます。

人口の状況は、新町建設計画にもまちの指標の見通しということで書かれております。合併前の2000年には9,785人であった人口が、2025年には5,192人になるとされています。この20年の推計は、ほぼ当たっております。まちの12月1日の推計では人口5,526人となっておりますが、外国人や一時的な住民などを換算しますと、流れ、傾向として、そう大きな差はないと思われまます。ほぼ推計のとおりという感じでございます。世帯数も、2000年当時は3,188世帯が、今は2,349世帯、1世帯人員は3.07人が2.21人と予想されていますが、これもほぼそうになりました。この20年で人口は半分になり、世帯数は3割減らし、3人暮らしの家は2人暮らしになり、14歳以下の子供が1,200人いたのが、今は4分の1の290人で、生産年齢の15歳から64歳は5,300人が2,160人に減って、さらに、昨年的人口戦略会議が発表し話題になりました消滅可能性自治体ということにも指定されてしまい、2050年、あと25年で消滅ということは私はないと思いますが、非常に小さなまちになるということの予想が出ているわけです。

このように、新町建設計画にはまちの指標ということで、まちの人口減少に関連した見通しというものがされています。この流れに対する対応策の面で、具体的な策の面が少し弱いなと思いました。小さくなるということは認めたくない、考えたくないところですが、もうそうは言っていられないところまで来ております。これからの4年間は、さらなる厳しい方向へ進んでいく重要な過渡期の4年です。定住・移住策は、担当の方も御苦労されておりますけれども、全国どこでも総じて力を入れており、地方自治体は本当に厳しい状況でございます。まちの傾向、動向、流れを把握していくことがこれからも大事なんですけども、どんなに努力しても、人口減少を、減少するほど移住で止めるということはなかなか不可能だと思います。町長の規模縮小に伴い、まちの実態を把握されて、今やるべきことは何だとお考えでしょうか、伺います。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 今やること、これからやることもそうですけれども、まず人材的なことです。人材の材というのは、財源のことも含まれているし、財産も含まれている。その中において、持続可能な地方行財政の在り方に関する研究報告書というものがあるんですが、その中において、人材的なことをいいますと、やはりこれからの仕事はアウトプット、アウトカム。アウトプットというのは情報整理、日々の業務って、職員は多いから大事なことはアウトカムなんです。要するに成果を出す、求めるということがやはり職員にとって大事。これは人材的なことですけれども、含めて、今まで令和6年度で80億円ぐらい、最終が。これは、全てにおいておいては、やはり合併特例債事業、新町建設計画によるもので、議員御承知のとおりでして、事務もそこを通さなきゃいけないところがありましたから、新町建設計画の中においておいて。ハード事業の財源の大きさがここまで来ているということは、

議員も承知だと思っています。

その中においておいて、7年度以降引き続き、財源の更正もありますが、やらなきゃならないことも、合併特例債が終わって残ったものもありますので、それは議員の皆さん分かっていると思う。解体もあるし、いろんなことがありますので。ハード事業としては、情報基盤整備の譲渡、これも入っています。いろんな中で、それもやらなきゃいけない、残った仕事の中で。民間移譲もありますので、そういったことの中においておいて、やはり歳入規模の、身の丈に合った財政規模に持っていかなきゃいけない。今までがお祭りのようなことなのかもしれないけれども、合併特例債というのが10年延びたから、東北の震災があつてさらに5年延びて20年になっちゃった。そのときは、私は町長じゃないです。議員もまだやってない頃ですけども、20年前は。傍聴におられる方は誰かかれかいると思うんですけども、その中においておいて、やらなきゃならんことをやらなかったという、それも私、含めて思っています。

今、本当、来年から起債を返していく。有利な起債を使って3割負担があるんですけども、来年から返さなきゃいけない、これもやりながら財政を整えていかなきゃならんということがありますので、いろんな意味の中であつて、身の丈に合った、人口5,000人、人口減少で移住定住やっているんですけども、どこのまちもやって、これも進めていかにゃならんんですけども、議員おっしゃるとおり、いろんな意味で、どんなに努力しても、でも、努力はしなきゃいけないんですよ、人口減少対策は。どこのまちもそうです。その中においておいて、やはり身の丈に合った財源構成に持っていかなきゃいけない。

もう本当職員もそうだけれども、職員の人材というのは大事で、どうやって職員がアウトプットとアウトカムを考えてくれるか、ここ大事なんです、本当、このまちが生き残るには。だから、そういった意味の中においておいても、職員にも奮起していただきたいし、マイクで聞いていると思うけれども、流れているから。そういったことの中で、いつもそういった教育というか職員には厳しいことを結構私は言っていますけれども、そうした中で職員も育っていただきたいし、まず人材が大事。人づくり。その中においておいて、どうやって財源を、五千何百人、そのぐらいの規模の中の世界においておいて、どうやって、サービスも受けなきゃいけないし、そういったことを考えながらこれからも進めていきたい。今すぐというか、これから先、そういった思いの中で続けていかなきゃいけないと思っています。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。（3）の質問に移ります。

町長は、まちの合併20年目の完了のタイミングの年に当たった町長ということですけども、新町建設計画20年間の計画のラスト4年間を担われ、終了完了の年ということで、新町建設計画、いろいろ書いてありますけれども、総括検証して、今の質問とちょっと重なるかもしれないけれども、できなかったことは何だったのか。あるなら、具体的にどんな課題が残されたのか、お聞きしたいと思います。

○議長（澤西省司君） 町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） 新町建設計画、合併というものがあって、それに私が振り回されたわけじゃないですけども、やらなきゃいけないことが幾つもあったから、20年前から。その中においておいて、新町建設計画も令和6年3月に変更した部分があって今の状況があるわけですけども、そういった中で、先ほども冒頭申しましたけれども、やはり生活道、これはちょっといろんな問題がある。今もいろんな生活道があって、昨日もいろいろお話があって、議員の皆さんも言ったかと思うんですけども、久保尾、原山もそうですよね、なんか本当にいろんな意味で私が町長になったら、いろんな道の面が次から次へといろんなことがあった。災害が続いて、いろんなことが続いているものですから、土木は私強いんですけども、なかなか土木工事というのは財源構成もあるし進まないところも結構あるものですから、そういった道路関係、362もあるし、今上長尾バイパス、富士城バイパス、そして473、この狭隘のところを、いろんな事業。

この前も、地元の方が県の土木へ、山田さんも一緒に行ったらしいですけども、そういった要望事項もやらなきゃいけないと思ってるし、当然大井川鐵道の問題、残ったことばかりですよね。その中においておいて、どう対応、対処していくというのは、私自身の問題もあります。県・国に要望活動、陳情に結構行っていますので、そういった意味の中において、お願いもしながら、この小さなまちを守っていかなきゃならない。だから、道半ばばかりですよ、知っている議員の皆さんは。いろいろやらなきゃならないことあるから、やっぱりそこには財源も絡むし、その中で、最初言ったような身の丈に合ったものもやっていかなきゃならないし、そういった生活に関わることは、できるだけ私も町民の皆さんにお会いしていろんなことを知っていますけれども、いろいろ町長の責任ですので、いろんなことを言われますが、いろんなことは中においておいて、これからもそういった思いを町民の皆さんにもお伝えしながら、20年目の節目として、まだまだ道半ばということをお伝えしたいと思います。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。次の質問に移ります。

町長は、ハードを終えてと言われましたが、今も問題が多く残っていますよというお話をいただきまして、選挙時にハードのという意味なんですけど、私は、町長の言われていることは多分公共施設のことを指しているんだろうなというふうに理解しました。現在、また将来、町の財政規模、人口規模から見て、まちが所有する、今日ちょっと資料にも置かせていただきましたけれども、公共施設の種類、数、保有面積について、どんな認識を持たれているでしょうか。また、同規模の他のまちと比べてどう捉えているか、お伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） 議員から提出された、比較ということで、これも何回も私も見えています。広域に広いまちというのは、やはりどこにも施設があるという。コンパクトシティ、吉

田町とか長泉町、当然これぐらいのところですよ。こういったことの中においておいて、公共施設のありようは皆さんに私提示していますので、いろんなものを一つの施設の中でどうあるべきかは、今後展開してまいりたいと思っていますので、そこはやはり議員各位の御協力、御支援も賜らなきゃならないし、議員の皆さんだって、これだけの施設があって、小さなまちで13.7、飛びぬけちゃっていますよね。これ事実ですので、先人たちが作ってきた。いろいろ当時あったんだろうと思うし、その中においておいて、縦に長い川根本町、そういった意味合いもあると思います。その中で、一つ一つを整理、精査しながら、この公共施設のありようもあるし、財源構成もそうだし、そういったことの中においておいて、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。大変重要な課題であると私も認識しております。今後のハード、公共施設の在り方について、例えば今話題となっている音戯の郷の在り方を一例に取っても、コンサルなどに委託しても、担当課が種々苦勞されても、最終的にその方向を決め、決断するのは調整を担う町長であります。そして、その町長の決定を是非か議会が判断するということになります。どの施設も設置目的が条例に定められているわけですが、造られた当時、設置された当時は、町民からも大きな期待と役割が課せられていた施設です。関係した多くの方の思いもあります。だからこそ、私はこれらの施設一つ一つを検証して、町民に報告することが大切だと思います。見事に役割を果たされた施設は、目的の完了を確認し、終了させて、新しい時代に合った方向へ考えていくと。目的が未達成で、改修し運営すべき施設や縮小、廃止、合併すべき施設など、厳しく仕分けをして、現在・将来のまちの規模に合わせた各施設の方向を定めていく。この方向の決断は、まさに町政に大きく左右されます。すなわち、そのときのトップ、責任者の政治的な政策、まちをどの方向に向けていくのかという考え方に大きく左右されています。町長の強いリーダーシップによって各施設ごとの検証をし、方向性を決定していくべきだと考えますが、お考えをお伺いします。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） まさに御指摘のとおりです。やはり最終的な方向性の決定は、私だと思っています。その中においておいて、やはり強いリーダーシップを持ってこれからも取り組んでまいりたい。それには、やはり二元代表制、議員の皆さんの御協力も御判断も必要になってくるということで、何回も言いますが、両輪の中で、どうやったまちづくり、今回は財政のことを言っていますが、どうするかというのは、皆さんで、私も問いかけますし、いつも聞いていますので、私が。その中においておいて皆さんに訴えることもありますけれども、そういった思いで強いリーダーシップを持ってやってまいりたい、そう思っています。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。これらの一つ一つの施設というのは、個々にどうしていくのかということをお伺いしたいところなんです。取りあえず今既に何か、来年度予算、令和8年度予算に反映されるようなことが、そういう施設の対象があるようでしたらここで伺いますが、いかがでしょうか。

○議長（澤西省司君） 総務課長、澤口誠一郎君。

○総務課長（澤口誠一郎君） 公の施設はたくさんありますけれども、今音戯の郷の関係で進めております。そんな中で、今度行政改革推進委員会の中で公の施設についてもまた検討させていただきながら、全体を見ながら決めて進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） 将来の方向ということで、個々の施設の種類ごとに示していただくのはまた次のタイミングということにさせていただきます。ありがとうございます。

続きまして、町内のスポーツ施設ということで、多くのグラウンドがあります。町営グラウンドに加え、空き小・中学校のグラウンド、人口減少と高齢化の中でスポーツ人口は減少し、利用率は非常に低くなっております。現状と未来を考え、これを今後どうしていくのか。維持していれば当然経費がかかります。毎年かかってきます。グラウンドの整理は、方向を変えての有効活用など、建物を解体するよりハードルは低いと思いますが、現時点で考えられる方向について、お伺いいたします。

○議長（澤西省司君） 社会教育課長、向島裕人君。

○社会教育課長（向島裕人君） 議員の質問にお答えします。

社会教育課が管理するグラウンドは、現在7施設あります。グラウンドは、町民の健康増進、地域コミュニティーの維持、それから、児童・生徒の教育活動の施設として使用されています。また、災害時の広域避難所及びヘリコプターの離着陸場、瓦礫の残骸物の仮置場として、地域防災計画の中で重要な役割を担う施設として指定されています。また、状況に応じては、仮設住宅の建設候補地となることも考えられます。現在も、利用が少ないグラウンドは、社会教育施設運営委員会で協議して対応しております。活用方法等については、今後も、利用者や地元住民の意見を聞きながら、施設運営委員会のほうで議題とし、協議してまいります。

以上です。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） これも、やはり町長のまち全体の公共施設についての考え方というものも今後反映されていくと思いますので、ぜひ社会教育委員会のほうでも検討していただきたいと思います。よろしくお伺いいたします。

まちの施設の町民生活に直結した重要なもので非常に気になるのは、飲料水の施設です。これも、人口世帯数の減少に非常に大きく関連した施設、ハード、生活インフラでございます。

す。どこの地区も人口世帯数、人口が減少しております、そうした中で施設を維持していかなくてはなりません。簡易水道施設、飲料給水供給施設は、命に直結する重要な施設でございます。町長は導水管をはじめとする施設の老朽化の状況について、どのように捉えているか、お伺いいたします。

○議長（澤西省司君）　　暮らし環境課長、風間一章君。

○暮らし環境課長（風間一章君）　今年度策定しております、仮称となりますが川根本町簡易水道施設耐震化事業計画におきまして、施設の更新等を検討し、また、それにより対策を行ってまいります。

　　以上です。

○議長（澤西省司君）　　町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君）　　本当にこの水道管というのは、長く、かなり老朽化していることは事実です。もうそれは議員も御存じで質問してるんでしょうけれども、いろんな意味の中で、今後も財源がかかる場所だなど。どこから拾ってくるんだろうとかいろんな思いの中で、どこのまちも悩んでるところが結構あるんですけれども、そういう点の中で、また議員の皆さんたちにも御相談しながら、直すところは直していかなくちゃ、いつどうなるか分からないところもありますので、だから、そういった意味で、この導水管というのも本当に我々のもつともつと前の人たちが始めて、いろんなことを始めたものですから、もう古くなっていることは事実ですので、ここの検討もしていかなくちゃいけない。同時に水道料のこともあるんですけれども、いろんなことをまた考えて、皆さんにお示ししながらやっていかなくちゃならないハード整備の一つです。

○議長（澤西省司君）　　石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君）　　まさにそのとおりだと思います。町民の数は、高齢化し、減少しております。少ない収入で生活している方がだんだん増えてきております。こうした中、水道料金の件も耳にしますけれども、物価高で厳しい暮らしを強いられる家庭の増加を考えますと、酷なことでございます。我がまちは、大井川の上流の豊かな水源の里、何はなくても水は豊富にある、こういうイメージがあります。大量に使う施設は別としましても、生活に使っている町民の命に関わる水を、町長の政策として値上げするか現状維持でいくのかの方向というものは、藺田町政に今回大きな信頼をいただいた多くの町民の人たちが注目しているところだと考えております。ぜひこのまちで生きていくための土台、生活インフラ、水をどうするかということで、東京都知事は、この間4か月分を無料にすると発表されました。また、今話題のお米券、重点地方交付金というものが今度出てきましたので、こういったものの活用もありだと思います。藺田町政を信頼し、信任いただいた町民に対して、まさか酷な決断はされないと思いますが、どういうふうに工夫をされていくのか。島田市も、この間、新聞によりますと、使用料金の少ない世帯は据置きと言っております。こうした工夫もありだと思います。将来の基本方針として、どのようなお考えか伺います。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 先ほどの質問の中に水道料金の話も出ましたけれども、まさか酷だという質問が来るとは思わなかったんですけれども、いろんなことで、今水道会計は企業会計になっていますよね。その中においておいて、水道収益によって運営されているということはもう皆さん御存じ。こういうせっぱ詰まったときにどうなるかというのは、いろんな思いの中で、町民の皆さんには本当にそういった命の水、沢水ですけれども、私のところは。大井川の導水管から引っ張ってあげればいいんですけども、そういったこともできないものですから、いろんなことの中においておいて、大事な命の水にどう対応していくか。これも2024年に基づいた水道料金の見直しとかそういったこともあると思いますので、今後の対応という答弁にさせていただきたい、こんなふうに思っています。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。ぜひ町民の期待に沿っていただきたいと思います。

また、インフラということを考えますと、社会インフラということだと、光ファイバーのことが問題になってくるんじゃないかと思えます。そしてまた、学校の空き校舎の問題、こういったことがありますけれども、光ファイバーは、例えば10年近くもたったわけですけども、今までにできなかったことを、光ファイバーを使って、こういったことを解決していきたいということでいろいろ当時言われていたと思うんですが、それができたこと、できなかったこと、こういったことの検証を一回したほうがいいと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

○議長（澤西省司君） デジタル推進課長、服部了士さん。

○デジタル推進課長（服部了士君） ただいまの議員の御質問にお答えします。

先月の全員協議会でも検証の内容を御説明いたしました。平成26年度に、整備事業と並行しまして利活用委員会で示された報告に対しまして、主に整備したことによりまして、今後まちへ提案がございました20の提案に対しまして検証した結果、15件は実施済みということで、75%実施済みということで検証はしております。

以上です。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） 夢のある光ファイバー通信網ということで当初皆さん感じていたわけで、その検証がやっぱり大事だなと思えます。そういうことをしないと、次のステップにはなかなか移るときに抵抗が出てきてしまうということがございます。

あと、空き校舎の関係で、地方の創生2.0で、高齢者施設シェアハウスへの転用整備について、財政支援を国が考えているような報道がちょっとあったものですから、インフラとして、そういったことについてどんな具合でしょうか。お考えがないか、ちょっと急な、これはこの頃出た話だと思うんですけれども、すみません。

○議長（澤西省司君） 町長、菌田靖邦君。

○町長（菌田靖邦君） これは島田市でもいろんなことをやっていますよね。空き校舎があるから、これも先ほど言ったように道半ばのことですけれども、いろんな民間対応の中で、どうすればいいかということが、絶えずそういうことは情報の収集ですよ、やはり。その中において、空き校舎がどういったこと。最初いろんな方が来てくれたんですけれども、本当ITの会社の人結構多かったですよ。学校再編でやることになって、しばらく、5か月ぐらい、そこで待っていてくれた人たちもいた。けども、やっぱりああいう業者は、早くどっかに行っちゃうよね、駄目だと、そこが。だから、そういった意味の中において、少し出遅れた感もありますけれども、その中においておいて、いろんな方法の中でいろんな情報も仕入れながら、またあした山下議員も質問するみたいですが、プラネタリウムのこと。いろんな方の中においておいて、いろんな情報を仕入れながら、やはり残ってちゃしょうがないし。再利用していただきたいし、そういったことを絶えずまた模索しながらこれからもやっていきたい、やらなきゃならない問題だと思っています。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。今の質問は、急に昨日か一昨日出た、政府が出した方向で、独り暮らしの高齢者が本当に寂しい思いをしているということで、共同生活をしようということで、非常に成功している事例があって、それをシェアハウス化をして、空いたところでやれば、すごく子供が集まる図書館とかいろんなことも含めまして面白い構想だなと思ひまして、ちょっと今入れさせていただきます、すみません。

私は、もう大前提としまして、まちは何を守るのか、誰を守るのかということを考えております。そして、賢く縮小するまちという考え方を提案したいと思ひ、今回質問させていただきました。スマートシュリンプという考え方で、大正大学の客員教授の日本経済研究センターの小峰隆夫先生という方が提唱されていまして、先生は、国や地方の今の人口減少を考察して、人間は一人一人のウェルビーイング、健康で幸せな状態を高めるということが最終の目的だというWHOの考え方から、国や地方の在り方を考え直して、スマートシュリンプ、賢く縮むという考え方を提唱されています。

日本、地方の人口減少の前提に、公共施設の統廃合、施設の集約、行政サービスを持続可能にしつつ、町民一人一人の生活の質、ウェルビーイングを維持、向上させるという、非常に無理のない地に足のついた現実的なまちづくりというものの考え方でございます。

私は、昨年、県の議長会、議長研修会で、岡山県の美咲町を訪問させていただきました。このまちは、まさにその考え方で先駆的に取り組まれておりました。美咲町は、2005年に3町が合併したまちですが、人口が急激に減って、歳入が減っていくということの予想を前提としまして、まちの総合計画を策定するときに、まちは、見栄えのよい計画ではなく、賢く縮小するというということを挙げたということでございます。まちの総合計画をコンサルタントに頼みますと、人口の維持、歳入の維持を目的とした計画になってしまうけれども、そ

ういう実現できない見栄えのよい計画はもうやめようということで、職員だけで人口減少を前提とした具体的・現実的なまちづくりを計画しようということで、賢く縮小ということを目標に上げ、まちを見直し、分散、老朽化した施設を撤去し、複合施設に集約する。無理に人口維持をすることにとらわれなくて、まちの中心部に機能を小さく集約していく。そして質の高い生活の維持。経済的にも効率性を高めることを目指して、利用しやすいところに集約していく。コンパクトシティの、町長が言われた考え方です、なるべく人口の機能をまとめて、インフラの維持コストを抑え、町民の高齢者移動も楽にしていく。医療や福祉、教育などのサービスは低下しないように、質に注意して、集落維持に配慮した移住策を促進するという考え方でございます。小・中学校も、こうしたコンパクト思考から統廃合し、義務教育学校を立ち上げ、スクールバス9台で町内を通学していると。そしてまた、なんと36施設62棟を解体、売却、貸与をして、公共施設の総量の大胆な削減に成功したということでございます。そして、壊すだけでなく、必要なものを小ぢんまりと造る。三つ壊したら一つ小さなものを造るというような手法でやっていったということでございます。私は、このスマートシュリンプ、賢く縮むということを提案したいと思います。町長、この考え方はどう思われますか。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 先ほど人材のところ、アウトプット、アウトカムと私は言いましたよね。必要なこと、現場主義に走らなきゃいけない、そういうまちに来ていると私は思っていますので、それでもスクラップアンドビルド、そこは必ずやっていかなきゃいけません。いろんな意味の中においておいて、これじゃあ駄目だとか、それはない、私には。だから、いろんな意味の中で、小さくコンパクトシティ化するというのは、縦に長いから、さらにそれをどうまとめる、これが難しいところだと思いますよ、地域間ごとで。なんで持っていったらいいのか、その施設を終わりにしたらいいのか、それは随分私も聞いているから、だから、先ほど言ったようにリーダーシップを持って、そういったことも考えながら、役場の職員はいろんな地域から来ているから、いろんな地域の中に溶け込んでみんないるから、地域から学ぶ職員もいると思うし、その中においておいて、いろんな提案もきっと出てくる。やらなきゃおかしい、職員が。そういった職員であってほしいし、私自身も、いろんな経験、町長になんぼ言ってくれてもいいものですから、地域に帰れば、やっぱりいろんな問題点があると思いますので、その中において、議員御提案のことも頭に入れて、これから先もまたいかにコンパクト化していくか考えながら、全部財政に絡んでくることですので、そこも整えてまいりたいと思います。すぐにはできないんですが、お願いします。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。私も、非常に優秀な社員の皆さんが大勢いらっしゃるんで、ぜひその力を結集していただいて、町長の下に、小さく縮小していくということを進めていただきたいなと考えております。

まちの公共施設総合管理計画というものを見せていただきました。これについて、町長はどのようにお考えですか。

○町長（藺田靖邦君） もう一回言って。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君、再度。

○7番（石山貴美夫君） 2021年に、まちがこの計画を書き直しされまして、それまでにもあったということなのですが、私もあまり目にしたことがなかったんです。たまたま今回こういった公共施設の整理ということで資料を探しましたら、まちの川根本町公共施設等総合管理計画という立派な計画ができていているということを改めて私勉強させてもらいました。この計画書によりますと、4年前の2021年のときは、私たちのまちは、公共施設が427施設、延べ床面積が8.4万㎡、同規模の伊豆の4町と比較すると、一人当たりの面積は、なんと伊豆の4町よりも2倍もあると。しかも、30年経過した施設が4.9万㎡で、約6割だと報告されているんです。これ、もう本当に、こういったことも町民に対して改めてやっぱり知らせていただいたほうが、私たちのまちはこんなに持ってるんだということが分かるんじゃないかなと思ったんですが、そういったことで、これは逆に言うと大変厳しいなという考えなんですけれども、そして、歳入の面も検証されていまして、生産年齢の人口が減少していくと先ほどお話ししましたが、地方税がこういったことで減収するので、自主財源の確保が非常に困難になってくるよと書かれています。そしてまた、歳出についても、高齢化で扶助費が増加し、依存財源で賄う状況で、公共施設の整備費は、これまでの水準の確保は難しいんじゃないかというふうに厳しく見ていただいております。そういう分析があったわけです。

それで、2020年時に所有する施設の保有をこれからずっとし続けるなら、35年間で440.2億円、年平均で12.6億円が必要となると。過去5年間に公共施設にかけてきた財源は平均で9.9億円なので、毎年2億7,000万円ずつ不足してくるよというふうに厳しい見通しをされておりまして、それで、多分こういったことから、今までも各担当の方々が、長寿命化ということでプラス20年の長寿命化を図るような事業をされてきたと思うんですが、それが全部完了したとしても年1億円ぐらいはやっぱりまだ赤字になるというふうに試算が出ているわけです。それで、これのまとめとしまして、基本的な認識として、歳入は今申しあげましたように自主財源確保が困難で厳しくなる。歳出は公共施設への充当は困難化し、管理運営コストは縮小していくと。そして、430もの町有施設は、更新改修時期が一時期に集中してきていると。これを避けるための長寿命化で費用の平準化をしてはいるが、大変厳しい状況になっていると。そしてまた、2番目として、町の合併によって同じような重複した施設の余剰があるので、これのバランスを考慮して地区の人口に見合った統廃合をするべきだと。そしてまた、人口減、高齢化、需要の変化を検証し、施設規模、配置の適正化を今の高齢化に合わせて、ユニバーサルということも含めながら考え直すべきだということが書かれています。

実際に、具体的に何をするかということも指摘されていまして、保有量の適正化をまず実行せよということでございます。新規の建設整備はもう抑制すると。できればやめると。そ

して、利用率の悪いところはもう集約して、あるいは処分していくと。そしてまた、所有施設の延べ面積の削減をするんだということで、要するに複合化をしたりやめたりしなさいということです。あとは、民間の譲与と売却の実施ということでございます。町長も同じようなことを政策の中で言われてたと思うんですけども、そして、総量の適正化を進めるということで、そのための方法としまして、まず検証しましょうということで、利用状況、費用の状況、場所などの総合的な評価を客観的にすると。その次に再編をしていくんだと。地域住民の意向をしっかりと聞きながら、まちづくりの観点に基づいて再編をすると。そしてまた、複合、廃止ということで、客観的に余剰スペースや用途によっては廃止する。そしてまた、条例等ありますけれども、それを変更して、複合的なものに全てしていくほうがいいと。そしてまた、借地として使っているような土地、そういうところに建っている施設は買取りをして、完全町有化して、将来の負担を軽減していくということが明確に書かれております。

この町の公共施設総合計画、総合管理計画というものが令和4年に改定されまして、内容的に非常にこれは重要で、私が今提案させていただいたスマートシュリンプ、賢く縮小するというのと非常に重なっている計画だなと感じました。町長、今これに従って、具体的にまちとしては一応動いているのかどうか、その辺について、どんなお考えでしょうか。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 令和4年に策定されたものですよね。ここに総務課長が2人もいますのでよく分かっている。私も公共施設の質問を確かしたような気がするんですけども、昔、議員の頃。だから、もうそういった時期が過ぎちゃって、忙しくしちゃった何年間だったんだなと思っていますよ。先ほど言ったように、やらなきゃならないこと。でも、手遅れになっちゃってるところもありますので、やはりしっかり見直して、やっぱりコンパクトシティ、小さくしながらこの施設、あの施設だという判断の中でこれから取り組んでいかなきゃいけない。経過年数も随分たっているし、長寿命化でいろんな手だてもしてきましたけれども、いろんな施設の中で施設をやはり縮小していかなきゃいけないし、かといって、ほしいものは残していかなきゃいけない。そういったことの選択、判断、これから一緒にやってみましょうよ。いずれまだやらなきゃやらない大きなことがありますけれども、かといって、後ろ見てちゃいけないから、前に行かなきゃいけない、これは。だから、そういった意味の中で、こういった問題も一つ一つ、我々で、やらなかったことだから。自信を持って、いろんな意味で地域の皆さんにもお話をしながら、上向いて、いろんなことをまた進めていきましょう。

○議長（澤西省司君） 時間が少なくなっていますので、御注意願いながら質問をお願いいたします。石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。部活動の関連ですけれども、指導員の確保、教育的配慮からの力や指導方法等の向上策についてどう考えますか。

○議長（澤西省司君） 教育総務課長、柴亨さん。

○教育総務課長（柴 亨君） お答えします。

現在の指導員候補の方々に対して、説明や交渉を行っているところでございます。一部の種目については、候補者に決定してないため、指導者の確保に向けた情報収集を進めております。

あと、指導方法ということで、教育委員会主催の指導者講習会を開催し、コンプライアンス関係の研修を実施しております。今後も定期的に講習会を開催していくとともに、児童・生徒に対してアンケートを実施していきたいと考えております。

以上です。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） ありがとうございます。相談や心配は今のところないでしょうか。その窓口はどこになりますか。

○議長（澤西省司君） 教育総務課長、柴亨課長。

○教育総務課長（柴 亨君） まだ一部の種目については指導者の確保ができておりませんので、いま一度情報収集を進めていきたいと思っております。また、相談や意見の窓口としましては、事務局があります教育総務課となりますので、よろしく願います。

以上です。

○議長（澤西省司君） 石山貴美夫君。

○7番（石山貴美夫君） どうも大変ありがとうございました。時間もなくなりました。部活動をしてくださる方は貴重な人材です。その道の好きな方がなれることが多いと思います。しかし、状況が、今世の中が大分変化しておりますので、子供への指導方法などいろいろ難しい面がありますので、日頃からどうかコミュニケーションをしっかりと取られて、いい方向へ進めていただきたいと思います。

関連質問をもう少し考えましたが、時間がありません。次回は、冒頭申し上げましたように、少数精鋭となるべく大きな改革をし、挑戦された議員がそろっております。新たな気持ちで愛するふるさと、かけがえのない川根本町と、このまちで暮らす町民の皆さんの安心な暮らし、ウェルビーイングを高めていく。町民に優しく、ずっと住み続けたい安心なまち、人口が減少しても、高齢化が進んでも、インフラがしっかり保たれた、町民の幸福感、安心感が一層高まる、そんなまちにと願い、私自身、選挙期間中ずっと町民の皆さんに投げかけ、訴えてまいりました賢く縮むという考え方、スマートシュリンプを町長に御提言申し上げました。御答弁、大変ありがとうございました。

以上で質問を終わります。

○議長（澤西省司君） これで、石山貴美夫君の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩いたします。再開は午後1時といたします。

休憩 午前11時43分

再開 午後 1時00分

○議長（澤西省司君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

6番、佐々木直也君、発言を許します。6番、佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） 19世紀、ヴィクトリア朝時代のイギリスで最も影響力のある思想家、美術批評家の一人として活躍したジョン・ラスキンは、美しさの価値が分からなくなったとき、私たちは自分の生きている場所を失うと言いました。今の川根本町を見るとき、私はこの言葉の重みを痛感します。

本日4番目の登壇となりました。お一人目の野口議員の言葉を借りるのであれば、生意気にも4番を務めさせていただきます。

ここまでの3名の議員からの質問で、本町が直面する痛みが改めて鮮明になりました。野口議員が指摘された作業の構造的危機、爾見議員が訴えられた公共交通の不備による人口流出、そして、石山議員が問うた合併20年目の厳しい財政の現実、これらは全て私たちが慣れ親しんだこれまでの仕組みが限界に達していることを示しています。しかし、ジョン・ラスキンは説いたように、美しさの価値、つまり私たちの足元にあるものの価値をコストとしか見られなくなったとき、町は本当に沈んでしまいます。令和8年度の各課マイナス3%という厳しいシーリングを、単なる縮小ではなく、経営資源の再定義の機会を捉えるべきではないでしょうか。特に通告書にも記載しましたが、令和8年度予算編成方針からは、本町の財政が極めて厳しいことが伺え、早急かつ抜本的な対策が求められています。今回の質問は、イメージの向きやすい里山をテーマにして質問させていただきますが、川根本町にある資源、それは、今輝いているもの、輝きが失われたもの、そして単なるコストだと捉えられているものの多くのことが当てはまると考えられます。

さて、先ほども触れましたが、示された令和8年度予算編成方針の各課マイナス3%という極めて厳しいシーリング。ここにあるのは、人口減少と財政難という厳しい現実です。その現実を前に、私たちは、いつのまにか、この豊かな里山を、ただ維持費がかかるお荷物や厄介なコストとしてしか見られなくなっていないのでしょうか。これこそが、まさに美しさの価値を見失いかけている状態です。そうやって自分たちの足元にある価値をコストだと放棄したとき、私たちは誇りを失い、やがて心理的にも物理的にも、この場所を維持できなくなります。だからこそ、予算というガソリンが減っていく今、必要なのは単に削る発想ではありません。知恵とデザインでコストを価値に転換し、外から資金と人を呼び込む稼ぐ発想への転換です。次年度予算、そして新しい総合計画は、今までとこれからの間、このまちの転換のタイミングとして、とても、とても重要なものです。今回は、この危機をチャンスに変えるため、風景の資産化と関係人口の戦力化についてという大きなテーマの下、通告に基づき、三つの視点から長町及び教育長の考えを伺います。

まず、1点目、風景の資産化について伺います。

令和8年度予算編成方針からも、本町の財政が極めて厳しいことが伺え、早急な対策が求められます。しかし、単に予算を削るだけではまちは緊縮均衡に陥り、発展性が危ぶまれます。私は、事業の意味を書き換えることで、外部からの資金を呼び込む事業の質的な転換を提案します。具体的な例として、今回の一般質問では里山をテーマに行います。

さて、現在も今後も必要な野生動物の対策としての緩衝帯整備ですが、これを、単なるやらなくてはいけない害獣対策、つまりコストとしてではなく、都市の人や企業が関わりたくなる美しい里山、混交林を再生するプロジェクトというような見せ方に変えてストーリーをつくりませんか。このストーリーがあれば、二つの大きな財源確保が可能になります。一つは、個人の共感を呼ぶガバメントクラウドファンディング。もう一つは、企業版ふるさと納税です。今、都市部の企業の多くが、SDGsや脱炭素の貢献として地方の森林保全プロジェクトの投資先を探しています。川根本町の美しい里山再生は、企業のCSR活動や社員研修の場として非常に魅力です。行政が単独で担うコストをこうした外部からの投資に転換し、多く人のゲインに変える可能性が見込めると考えますが、町長の考えを伺います。

二つ目です。関係人口の戦力化について伺います。

予算編成の重点項目には、定住・移住の促進とあります。しかし、移動可能な社会、いわゆる人口流動社会といわれる今の時代においては、最初からハードルの高い定住・移住を求めるのは、コストに見合う事業効果が出にくいと考えます。むしろ、関係人口の増加こそが地域課題を解決する戦力になります。来年度から開始される見込みのふるさと住民登録制度を最大限に利用し、定住・移住へのこだわりから、二拠点移住や関係人口を主役にする制度設計への転換はいかがでしょうか。例えば先ほどの企業版ふるさと納税でつながった企業の社員が、研修や保養で定期的に訪れ、里山の手入れを手伝ってくれる、そんな法人単位の関係人口も視野に入れるべきです。彼らを単なるお客様ではなく、地域課題を解決するパートナー、戦力として位置づけるべきだと考えますが、見解を伺います。

最後に、三つ目です。非常に抽象的な質問ですが、これはすごく大事なことだと思いますので、改めて伺います。

川根本町にとっての楽しさとは何か。予算編成方針の冒頭に、新しい日本、楽しい日本という国の動向に触れています。では、川根本町にとっての楽しいとは何でしょうか。あえてこの今後の財政が厳しくなっていくと思われるタイミングの予算編成方針の冒頭にこの言葉を持ってきたということに、私は希望を感じました。この点について、町長と教育長の定義とビジョンを伺います。先ほど町長は、石山議員の質問の答弁の中で、稼ぐ能力の向上と定住促進について発言をなさっていました。御承知のとおり、まさに今回の私の質問はそこについてです。ぜひとも町長の前向き、かつ具体的な答弁を期待し、壇上からの私の質問を終わります。

○議長（澤西省司君） ただいまの佐々木直也君の質問に対し、町長の答弁を求めます。町長、

藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） それでは、今日の最後の質問者、佐々木議員の質問にお答えさせていただきます。

まず、一つ目の風景の資産化について、お答えします。

議員の御指摘のとおり、当町の財政状況は、先ほどから何度も言っておりますが、今後厳しくなることが想定されており、令和8年度予算編成に当たっては、歳出のスリム化と歳入の確保を指示して作業を進めております。当町では、国や県の制度を活用して森林整備を進めています。山林経営の収益性低下や所有者による森林管理の不十分さといった課題の解決に主眼を置いて取り組んでいるのが現状です。

野生動物との緩衝地帯を整備するためには、集落周辺の森林を対象に相当な面積を整備していく必要があります。職員及び施業実行者のかなりのマンパワーが求められます。現状では実施は難しいと判断しております。しかし、まちとして森林の生物多様性確保や景観形成機能などを具体的に示すことができれば、都市住民や企業などからの共感を得られる関係構築が可能になると考えます。実際、NPO地球と未来の環境基金が町内の森林をフィールドとした環境整備事業を実施しています。これらの実績を適切に広報すれば、別の企業への波及が期待されます。まずは、雑木が交ざった針広混交林化が資産や資源になり得るような森林整備の方法の構築を検討してまいりたいと思っております。

2番目の本町への定住・移住の施策について。二地域居住や関係人口を主役にする制度設計への転換についてお答えします。

人口減少が著しい本町において、定住・移住の促進は喫緊の課題であり、今後も取り組んでまいります。同時に、関係人口の増加や川根本町のファンを増やすことも定住・移住促進につながる重要な取組として進めております。その一環として、今年10月に、旧本川根中学校でみどりのクラフトマルシェを初めて開催しました。本事業は、イベント開催だけでなく、全国のクリエイターの方々に実際に本町に訪れていただき、町の魅力を体感していただきました。また、令和8年1月から3月にかけて、一般社団法人ALIVEが全国の大手企業社員を対象とした人材研修を、川根本町を舞台に実施します。当町の職員も研修に参加し、職員には、人脈づくりと川根本町ファンを増やすように話しております。ふるさと住民登録制度については、関係人口創出の観点から有効と考えられますが、現時点では国の制度設計が検討段階であるため、検討の内容や他市町の動向も注視しながら導入可否を検討したいと考えております。

三つ目の川根本町にとっての楽しいとはなにかについて、お答えします。

国の経済財政運営と改革の基本方針2025、いわゆる骨太の方針では、国民が今日より明日はよくなると実感できる新しい日本・楽しい日本の実現が掲げられています。議員の御質問にある川根本町にとっての楽しいとは、私なりに考えることは、私が公約に掲げるハードからハードへのハードに関する部分ではないかと思っています。これからのまちづくりは、行

政だけで決めるのではなく、町民の皆様とともに考え、ともに実現していくことが不可欠と考えております。本町が抱える課題を解決するために、町民の皆様とアイデアを出し合い、心を通わせながらともに取り組むことで、まちをよりよくしていく。その過程で責任と努力は伴いますが、ハートを交流させるまちづくりを進めていくと、楽しい川根本町につながるものと考えます。

以上です。

○議長（澤西省司君） 教育長、石原一則君。

○教育長（石原一則君） 町長のお答えした楽しいを、私の立場から申し上げさせていただきます。

楽しいというのは、一時の娯楽や快樂というものばかりではなくて、やはり日々の暮らしの中で心が満たされて、そして生きがいを感じられることだと思います。教育委員会は、学校と地域との連携を深め、全ての世代が参加し、支え合う施策を通して、川根本町のウェルビーイングを高める努力を続けます。町民の皆様とともに楽しい川根本町をつくってまいります。そのためには、川根本町の教育は、教え育てるではなく、ともに育つ。川根本町の教育は、大きなファーンになると考えております。

○議長（澤西省司君） 再質問を許します。6番、佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） 今、町長の一つの風景の資産化のほうからなんですけれども、混交林の整備ということについてちょっとありましたが、マンパワーが足りないよということでしたりとかそういう話が今あったんですけれども、まさに今お話の中にありました地球と未来の環境基金の方というのは、ずっと約10年ぐらい前から、10年たっていないかな、かなり前からこのまちには関わってくれています。何を基金の方はしているかという、企業との間に入っているというのがこのまちとの関わり方なわけなんですけれども、その関わっている企業というのが、具体的な名前は避けますが、大井川の下流のところにあるある会社が、たくさんの水を使っているから、水を使っているその上流部である川根本町に対して何か貢献できることはないだろうかということで入ってきてくれています。そのコーディネーター役として、地球と未来の環境基金というところが入ってくれているわけなんです。地球と未来の環境基金はそうやって手伝ってくれて、たまたまそういう企業がいた。そのたまたまいる企業というのが、今お話ししたとおり上流部である川根本町を支えたいということですから、このストーリーというのがあれば、ほかにもたくさん手伝ってくれる企業がいる。むしろストーリーを提示してくれないと、なかなか手伝えないよと。企業の論理として何か理由をつけなきゃいけないわけですから、その理由の部分をやわざ用意してあげないと、企業版ふるさと納税等はなかなか期待できないのではないかと私は考えております。なので、まずはストーリーをつくる。モデル地区をつくり、そこに企業を呼び込むということは、そう難しくないことじゃないかなと思います。

そうやって手伝ってくれる、コーディネートしてくれるところを、実は私は担当の方と話

をしました。そのときに、こういうふうには私は考えていて、今まちはこういう状況である。今後、例えば企業版ふるさと納税等で企業がそういう手を挙げたときに手伝ってくれますかという問いに対して、もちろんお手伝いさせていただきますと、かなり前向きな返答をいただいております。まちとして、先ほど私壇上で質問しました、ストーリーをつくっていく、そのコストを無駄なものと思わず、このまちの宝として育てていくということについて、改めて伺います。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 佐々木議員御指摘の企業版ふるさと納税、あとまたガバメントクラウドファンディング、いろんな思いは私も感じているところでして、やはり目的を持ったストーリー、これは大事なことだと思っていますので、脱炭素化といわれていますので、そういった意味の中においておいて、企業とどうマッチングしていくか、またこれも少し考えながら進めていきたい。また、新たにいろんな情報も教えていただきたい、そんなふうに思っています。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） もちろん何かあったときは、情報をたくさん提供させていただきたいと思います。

それで、さっき混交林について僕が話しするのを忘れたんですけども、混交林化というのが、かつての林業ではあまり考えられなかったことらしいですよ。杉、ヒノキを植えて、それを間伐等して、それを出荷して、木材として利益を上げていくという構造が今の時代もう合わなくなってきた、ゆえに山が荒れてしまっていると。入る人が少なくなった。それは、町長も時折山に入る人が少なくなったという話はなさっていますけれども、森林組合の方向性というのは、実は、今までの林業、杉、ヒノキを植えたら伐採してまた植えるというモデルが変わってきていて、もちろん地権者、山を持っている人の思いがあるんですけども、できれば混交林にして価値ある森にしていきたいということを森林組合のほうでも考えていらっしゃるというふうに伺いました。ただ、説得というんでしょうか、森林組合はそういうふうに考えていますけれども、森林組合というのは、話をいただいて、つまり依頼を受けて動くものですから、なかなか今までどおりの動きしか今のところはできない。思いがあっても、分かってもらうのが難しいということをおっしゃっていたわけなんですけれども、もしまちが混交林というものをこういう意味で推奨していきます、推していきますよということがあれば、森林組合としては積極的にそれを広報し、またそのように働きかけていきますよ。そうすれば、風景が変わっていきますよということを森林組合長がおっしゃっていましたが、まちの考えを伺います。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 針広混交林化という言葉が出まして、皆さんあまりなじみがない言葉なのかもしれません。現在生えている杉、ヒノキの林の本数を抜いて、そこに広葉

樹を生やしていくという施業であります。これは、木材生産というよりは、どちらかといえば森林環境の保全、森林の維持をしていくための手段であります。例えば森づくり県民税を財源にした森の力再生事業というのが県にございます。この県の事業は、まさに針広混交林化を目指したものです。しかしながら、森づくり県民税の森の力再生事業については、どちらかといえば奥山で実施されるという、そういったスキームになっております。里山のほうではなかなか実施しにくいということが挙げられます。ですので、現在でも実は行われておりますので、これを広報していく。あるいは別の事業で場所を変えて実施していく、こういったことは可能ではないかというふうに考えております。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） 今おっしゃってくれたように、奥山でやっている。やってはいるんですが、それはもっと手前のほうに持ってくるために、それを森林組合にやってもらうために、まちとしてこういうことを推進していこうじゃないかと。景色を変えていこう、豊かな森、山にしていこうという提案ですので、もう現場としては、まちとしてそういうふうに言ってくれるんだったら私たちも非常に動きやすいと、そういうところまで来ていますので、まちとして提案といいますか、まちとしての方向性を、総合計画、森林。

（「森林整備計画」の声あり）

○6番（佐々木直也君） 森林整備計画。森林整備計画はちょっと前ので、最近新しくなっちゃったので、それはたぶん動かさないとしますので、ぜひ総合計画の中でそういうことをうたっていただけると、まちの景色が改めて豊かになっていくのではないかと、そういうふうに考えますので、ぜひ前向きな検討をお願いしたいと思います。

さて、今お話があったように、里山の景色を変えていくには外の力が必要で、今まさに僕は企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングを提案させてもらいました。ただ、これが今のところあまりこのまちでは生かされていないというのが現状の中で、先ほど壇上でもお伝えしましたけれども、次年度予算また次の総合計画というのは、今後のまちづくりの、今後というのは1年、2年の話ではなくて、本当に5年、10年先においても、今この次の次年度というのは非常に重要なタイミングだと思っております。その中で、今やっていない企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングを、新しく誰かがこういうのがあるからちょっと考えてみてというスピード感ではやっぱり遅くて、あと一年ちょっと研究しましょうというんじゃなくて、もう次年度から具体的に動いてほしいというのが私の願いでして、そのためには、そのための専門チームのような特命チーム、それは専門じゃ無理だと思うんですよ。専門というのは、それを専門としている職員というのは、現状の職員の状態ではなかなか難しいと思いますので、兼務で結構です。兼務のそういう辞令を出していただいて、そういうプロジェクトチームをつくっていただく、そういう考えはいかがでしょうか。

○議長（澤西省司君） 副町長、渡邊誠君。

○副町長（渡邊 誠君） 確保につきましては、私副町長及び関係課のメンバーで構成する委員会を設けて、一つずつ着実に実行してまいります。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） 例えばその委員会あるいはプロジェクトチームができた場合、役場というか今までの多くのこういう組織で活用されているP D C Aというサイクルがありますよね、プランドゥというやつです。それじゃなくて、これからの時代はA A Rサイクルというのが新しい考え方としてありまして、役場の仕事は間違ったらいけないとかミスしてはいけない、そういう空気がとてもあるんですけども、それによって過剰なプラン、過剰なアクション、過剰なチェック、失敗していないかどうか、無駄に使っていないかどうかということがすごく遅くなってしまいます。実行に対しても遅くなるし、それに対する振り返りも遅くなってしまいます。このA A Rサイクルというのは、前例踏襲ではなくて、まず自分たちが、私たちはどうありたいか予見する。次、まず試す。アクション、まず試す。次、学習する。だから、どんどんやってみて、やりながら考えるというような感じなんです。だから、あまりこれで大丈夫だというすごい固い固い感じじゃなくて、ちょっと攻めた感じなので、そういうようなことをぜひ、そういう何か新しくチームをつくる場合には、今までのP D C Aサイクルではなくて、攻めの姿勢というものをぜひそこには入れていただきたいなど、そう思います。

役場全部がP D C AサイクルではなくてA A Rということではなくて、攻めの箇所と守る箇所、守る箇所はP D C Aのほうがいいと思うんですけども、攻めるところというのはきっとあると思いますので、先ほど町長も触れました稼ぐ力という部分では、A A Rサイクルのぜひ採用をお願いしたいと思います。

では、次の質問です。

先ほど野口議員の質問の中で、トップセールスについて町長がお話しなさいました。トップセールスに俺は行くぞというような勢いがありましたけれども、先ほどから触れています企業版ふるさと納税というのは待っていても来るものではないので、町長自らが都市部の企業へ出向いて、川根本町の、俺たちのまちの美しい里山を守るパートナーになってほしいと熱くトップセールスをしていただきたいんですけども、そのような覚悟はどうでしょうか。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 先ほど来お話しさせていただいています、少しちょっと、人材の話で出たんですが、アウトプット、アウトカムの話。これは本当に事業量の多さよりアウトカムで何が必要か、そういったことの観点においておいて、私が企業人と会って、いろんなふるさと納税とか企業版納税、そういったものをいただいてこいと。実際私自身も動いていることは動いていますので、あちこちに行って。こんなにいる、お茶の関係でもそうだし、いろんな意味の中においておいて、あと教育のほうで鶴居村が来るかな。いろんなところの中間の関係性の中でどうやってやればいいのかというのは、もう本当現状これでもなかなか人気

者でして、県からは。いろんなことの話の中で、教育長はよく分かっているけれども、いろんな中で、県外に行ってもいろんなことの中にいつもおいて、いろんな情報も集めたり、それはこれからもずっと変わりませんので、なお一層拍車をかけていろんなことをやっていきたい、こんなふうに思っています。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） 町長が人気者のは、いろんな場所に行ってお話をしている姿を見てなんとなく感じていたことでもあります。それで言いますと、やはりこの大井川、当町の真ん中を流れています大井川、下流部関係市町村いろいろ、あるいは長島ダムから配水をしている市町村がありますけれども、ここを守ってほしい、一緒に守っていかうじゃないかというのは、今までの総合計画の中にもあります森と水の番人という言葉、これをもうちょっとさらに拡大して、流域地域全部で守っていかうというような働きかけをする、していく。今でももちろんさっているとは思いますが、そのための受皿を準備しておきましょうよという話。今やってないということではなくて、今でも例えば都市部にマルシェへ出かけていく企業、川根本町から出ていくところがある。あるいは先日、産地賞というものをお茶の部門でいただいて、そういう外の発信力はあるのに受皿がないというところで、その受皿である企業版ふるさと納税というものを準備しておく。ガバメントクラウドファンディングを準備しておく。そこがあれば、いつでも入れるよねというところがきっとあるので、そういうのがあると、さらに町長がやっていらっしゃるトップセールスがこのまちにとって非常に機能していくことかと思えますし、また、今実は僕も、ちょっと厳しいことを言うようですが、産業振興課というのを町長の号令でつくられて、ただ、産業振興課をつくった意味というのが今のところ発揮されていない中で、思っていた産業と、一次産業と販売のほうを合わせて六次化というものをやっていかうじゃないかという部分で、あまり今のところ、もうちょっと機能できるはずなのだという部分で、今みたいな受皿があればもっと発揮できるものもきっとあるんじゃないかと思えますので、その受皿をぜひ準備してほしいと、そういうことで準備するに当たっては、多分片手間じゃ無理だから、そういうチームを結成して集中的にやっていただきたいと。今の話はそういうことでございます。

細かい話をしますと、予算や総合計画で有害鳥獣対策とかそういう言葉というのはよく使われますよね、なんか政策とかそういうことで。なんですけれども、そういうのはあまり夢を感じないというか前向きじゃない感じなので、そういうのを、里山再生景観創造事業とか、そういうちょっと後ろ向きなものを、価値を変換するために、細かい言葉から、言葉のデザインからこのまちの姿勢を見せていくというのは、まちとしても、また教育行政側としても必要なことだと思いますけれども、そこら辺について、次年度からどうでしょうか。

○議長（澤西省司君） 産業振興課長、鈴木浩之君。

○産業振興課長（鈴木浩之君） 事業名を工夫する、変えるということは、町民の捉え方あるいは多くの皆さんの共感、そういったことに結びつくというふうに考えます。大切な要素だ

というふうに考えております。同時に、例えば画像、例えば文章、そういったツールで訴えかける、こういったことも合わせて行えればというふうに思っております。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） ここまでで、ひとまず風景の資産化については終わりました、次に関係人口についていきます。

先ほどふるさと住民登録制度について、今のところ国から出されている内容について不透明なところが多く、まちとしてもどういうふうな扱いをしたらいいか分からないというような答弁がありましたけれども、全くそのとおりで、ふるさと住民登録制度が今後どうなるのかというのは、制度が来年度から国の仕組みとして始まるのは恐らく間違いがないけれども、全容についてはいまいち不明。これは、間違いなくそう。僕が調べてもそうだったので、そうです。だからといって待っていると、やっぱり後手後手に回ってしまうと思いますので、幸いこのまちには関連しているこのまち出身の国会議員の方がいらっしゃいますよね。なので、まずは我々がこういうことをしたいという理想を描いて、ふるさと住民制度がこうなったらすぐイケてるぜみたいないい方向で想像力を働かせて、モデルケースを先につくって国会議員の方に伝えて、川根本町はこういうことを行っている、これをモデルにしたらどうというぐらいのことができる、非常に強力にこのまちが目立っていく。また、ふるさと住民登録制度がこのまちにとって非常に有効に働くようになるのではないかと思いますので、今のところ枠組みは決まっていなければこっちは先に定義しちゃおうというようなことというのは、うまい自治体は割と今回のことに限らずやっていることというのが結構あるんです。後から制度が追いかけてくるということはある得ますので、あまり今強くは言えないですけれども、こうしろというふうには僕もあまり言えないですけれども、ふるさと住民登録制度、地方創生の新しいものの目玉の一つとして動き出すのは間違いのないことですので、国がやっていくことですので、ぜひ想像力を働かせて、ほかの自治体に後れを取らない、まねをするだけじゃなくて主体的にやっていただければと思います。

そのふるさと住民登録制度、うっかりすると広報紙やメールを送るだけのメーリングリストになってしまうんじゃないかと僕は危惧していますので、ぜひ先に想像力を働かせてください。私のイメージとしては、企業版ふるさと納税で関わってくれた人、ガバメントクラウドファンディングで応援してくれた人をふるさと住民登録制度へ登録することによって、こんなメリットがあるよという誘導をしていくのがいいのではないかと僕は思っておりますので、そこら辺も踏まえて、私がさっき提案させていただいたプロジェクトチームにそういうことを考えてもらうというのが、早急に求められるタイミングだと思います。

今のようなことをやっていると、だんだん外の人間が入ってくることになります。それは僕は戦略として捉えてほしいわけですがけれども、役場の職員の皆さんというのは、今のところ、例えば外からやいやいやいやいや人がたくさん来た。手伝うよ、手伝うよと来たときに、いやいや、今ちょっといっぱいいっぱいだから勘弁してよというのが正直なところなんじゃ

ないかと想像します。その中で、関係人口を受け入れる際、現場の職員が素人の相手をするのは仕事が増えると感じてしまっは、うまくいきません。その入り口の部分がちょっと面倒くさいというテンションだとうまくいかないの、彼らは仕事を減らしてくれる頼もしい味方だという意識改革がまずは不可欠だと考えます。職員研修に外部講師を招くなどして職員のマインドセットをまずは変えていく、その取組について、いかがでしょうか。

○議長（澤西省司君） 経営戦略課長、坂下誠君。

○経営戦略課長（坂下 誠君） 職員の思いについて、佐々木議員は仕事が増えるとかとおっしゃられたんですけども、多分今の状況を見て、職員は頭が痛い。確かに前向きに捉えて、確かに人口減少はもう進んでおりますので、外部から来てくれる人、即戦力、しかも若い人が来てくれていますので、そういった方たちとうまくやっていく。それには、役場職員もそうですけれども、やはり地域というものもすごい重要だと思います。町長も職員に対して、先ほどの答弁にもありましたけれども、職員にかなりきつく、厳しく地域の実情を踏まえるように言っておられます。そうした部分で職員の意識改革は当然必要になってくると思いますけれども、それと合わせて、受け入れる行政側もそうですけれども、地区で受け入れるコミュニティーのほうもすごく変わっていかねばならない、その今転換期だと思っています。人口は減っていく、もうこれは仕方がない事実です。そういったものを踏まえて、どうやって今後増えていくと思われる関係人口を増やしていくかという部分では、本当に職員も一丸となって考えていく必要があると思います。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） 本当に人口減少というのは、先ほど町長も触れられましたけれども、このまちの問題でもありますけれども、全国的な問題であり、あらがうのはなかなか難しい波の中で、さてその中でどうやってその波に乗ってこのまちが生きていくかというところで、人口減少に立ち向かうというものではないのはもちろん同じ意識の中で、外の人にどうやって頼っていくか、外の人とどうやって付き合っていくかという部分だなというふうに思っています。本当に発想の転換というのが必要で、今後は、行政職員というのは、今までは何かを担った自らプレイヤーで、俺がやるんだということで各それぞれの課長がいて、室長がいて、それぞれの皆さんがプロジェクトを担いながら、仕事を担いながら進めてきたのが行政だと思うんですけども、これからは自分がプレイヤーじゃなくて、外から来た人あるいは町民を束ねるコーディネーターのような役割になっていくというのがこれからのやり方なんじゃないかと。ではないと、本当に業務が複雑化している中で、みんな心が折れちゃうんですよ、やっぱり背負い過ぎちゃって。なので、本当に外の人を頼るということに頭を働かせるというのが、今非常に重要なことなんじゃないかと思っております。この件について、肉体労働じゃなくて知的労働のシェアというのも重要だと。今、木とかの話をしていましたけれども、知的労働のシェアについて重要だということも思います。

以前、いつか、前か、前の前か、結構前に質問したんですけども、役場では手が回らな

い業務を切り出して副業人材に委託する。都市部の人材に委託するということについて、人件費を抑えつつクオリティを上げるという予算編成方針に合致した業務改革について、地域活性化企業人という総務省の仕組みの活用を提案させていただきました。前向きな答弁をいただいた記憶がありますが、それについて進捗はいかがでしょうか。

○議長（澤西省司君） デジタル推進課長、服部了士さん。

○デジタル推進課長（服部了士君） ただいまの御質問についてお答えします。

以前一般質問におきまして、広報における業務におきまして、地域活性化企業人制度を活用して人材を活用したらどうかという提案をいただきまして、いろいろ検討した中で、来年度当初予算におきまして、広報業務及びDXの情報の業務におきまして、地域活性化企業人制度を活用し、人材を活用するというのを来年度予算に盛り込むことで進めております。

以上です。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） それはとてもうれしいです。本当にデザインとか広報とかのレベルが上がると、その効果というのは、倍、3倍、10倍とか、本当にデザインの力というのは重要ですので、外のそういうプロフェッショナルな方に頼るといのは非常に重要ですし、まちが前向きに動いてくれたことを非常にうれしく思います。

では、3番目の楽しさについてですけれども、先ほどの言葉の意味をちょっと変えていこうというのとちょっと似ているんですけれども、次期の総合計画において、成果指標KPI、重要業績評価指標というものが、また当然載せてくると思うんですけれども、従来の行政は、人口が増えたかとか施設利用者はどうだったかとか、そういう数字で評価しがちの中で、今後は、今お話しさせていただいたようなことを踏まえて、町内で新しいチャレンジやプロジェクトが幾つ生まれたかとか、町民と外部の人のコラボレーションがどれだけあったかとか、まちに関わりたいといってくれた人の数とか、プライドや熱量を図るような、そういうようなウェルビーイングに関係するような数字というものをKPIにすることによって、具体的な数字というよりも、そういうような幸福度みたいな部分をKPIにするということは、いかがでしょうか。

○議長（澤西省司君） 経営戦略課長、坂下誠君。

○経営戦略課長（坂下 誠君） KPI、重要業績評価指数ということで、プロセスにおける進捗度合いを測るための数値目標ということなんです。それというのは、具体的な数値を設定することで、現状を客観的に把握して、改善という部分で、改善を効率的に持っていくというような、当然そういったものがあります。今おっしゃるように、佐々木議員、単なる数値じゃなくて、気持ちの部分とかそういった部分で、確かにそれが何か数値的に出ればいいんですけれども、KPIというのは数値で表すという部分がありますので、例えば今おっしゃっていただいた参加してくれた人の数とか回数とかという部分で改善できる部分はあろうと思うんですけれども、なかなか気持ち的な部分を数値にするというのは難しいとは思

ますが、今後、そういった今までの数字、何回参加したかとかこれがどのぐらい導入したかという部分ではなくて、今せっかく第三次総合計画を策定中ですので、そういった部分、今回皆さんに、多分4人に一人の人に総合計画のアンケートが行っていると思います。これ、申し訳ない、かなり時間がかかるものです。というのは、県からの指導もあって、ウェルビーイング、それこそ、その指標に対してのアンケートを取りなさいということで、その部分で時間がかかるようになっていきますので、そういった部分、県のほうもそういう指導ですので、そういったK P Iについてもそういった指標を取り入れられるように進めていければと思います。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） そうなんです。従来の利用者数とかなんかそういうのって、達成していなければもっと予算を入れていけというようなことになりかねないと思っていますので、知恵とかアイデアを生かして充実させていくというような指標にできたらいいよというのは思いますし、国際的にもそういう流れになっているので、当然県からもそういうことが来るんじゃないかと思います。

だんだん締めめの時間になってきます。

ちょっと町長に質問です。楽しさについて伺いましたけれども、町長は今町政運営を御自身は楽しんでいらっしゃいますか。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 楽しむとか苦しむとかという問題ではない。やらなきゃいけないから。そこにおいておいて、楽しさを追求する、そういったことも考えてやっていかなきゃいけないと思っていますけれども、町長は苦しいものだよ。でも、その中において、町民にどれだけ楽しさを与えるかということが私の使命だと思っていますので、そこを大事に、これからもきっとそれは変わらないでしょう。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） それはもちろんそのとおりなんです、リーダーが眉間にしわを寄せていては住民も楽しめません。にこにこしている自治体は、町長が何をしているかどうか分からないけれども、ウェルビーイングについてデータを取っているヴェルビーイング学会というのがあるんですけども、町長というか首長がにこにこしているところは、その自治体みんなのウェルビーイングが高いというデータが出ているので、首長が不機嫌というか、例えば不祥事が起きると、ずっとウェルビーイングの順位が高かったところが、不祥事があっただけでみんなのウェルビーイング下がるというのがありますので、とにかく首長はにこにこしているというのが重要らしいです。

○議長（澤西省司君） 町長、藺田靖邦君。

○町長（藺田靖邦君） 心がけます。結構にらみ返してくる人もいますものですから。私自身もこの4年間というのはなかなかいろんなことがありましたので、どうしても眉間にしわが寄

ってしまったのかなど。日々悶々としていた、先ほどお話ししましたけれども、4年間の日々というのは本当につらいときもあったものですから、先ほど議員の皆さんと一緒にお話ししなかった、不十分だったと言ったでしょう。これからどんどんあなた方とお話ししながら、どんどん笑顔になっていきますので、御協力、御支援をいただきたい、お願いいたします。

○議長（澤西省司君） 佐々木直也君。

○6番（佐々木直也君） ありがとうございます。そのウェルビーイング、さっきから話が出ていますけれども、ウェルビーイングの四つの因子というのが、やってみよう、ありがとう、何とかなる、ありのままに、この四つです。町長自身がこの心を持って、ぜひ予算や総合計画の作成に臨んでいただきたいと。また、その部下たち、行政職員の皆さんに、この四つの因子を与えられるような、にこにこした町長であってほしいと思います。

では、締めですけれども、町長、教育長、また課長、皆さん熱意のある御答弁、悩みぬかれた言葉をどうもありがとうございました。今日私が少し通告の枠を超えてまで深く問いただしたかったのは、この予算縮小という有事において、平時と同じ思考停止をしては本当にこのまちが終わってしまうというそういう危機感からでした。財政は確かに厳しい。これは数字上の事実です。しかし、数字がないからといって、私たちの知恵やアイデアまで枯渇しているわけではありません。これから策定される総合計画が、単なる寂しくなるまちの管理マニュアルであってはならない。人口が減っても、予算が減っても、知恵とデザインで豊かさをつくれる。外部の人たちを巻き込めば、必ず解決できる、そうしたことが今求められている総合計画の姿だと思います。

冒頭に申し上げた、美しさの価値が分からなくなったとき、私たちは自分の生きている場所を失うというジョン・ラスキンの言葉。一方で、彼はこうも言っています。美しいものをつくるためには、そのづくり手が幸せでなければならず、その環境が美しくなければならない。まずは、ここにいる私たち、役場の職員、そしてもちろん傍聴の方々も含めて、私たちがこのまちにいることに幸せを感じ、誇りを持ちましょうよ。私たち大人がこの里山に美しさや誇りを持ち、外の人々と手を組み、子供たちに格好いい背中を見せることができれば、予算が減ろうとも、人口が減ろうとも、このまちはどこよりも楽しく、誇り高い場所として生き残ります。予算がないは諦める理由でなく、知恵とつながりを生み出す変革の合図、そう思います。これからの川根本町に必要なのは、管理や前例踏襲ではなく、多様な人々を混ぜ合わせ、新しい化学反応を起こす熱量です。次年度予算、そして次期総合計画が単なる行政文書ではなく、希望の設計図であり、また、町民と世界をつなぐ未来への招待状になることを強く期待し、私の全ての質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（澤西省司君） これで佐々木直也君の一般質問を終わります。

以上で本日の一般質問を終わります。

◇

◎散 会

○議長（澤西省司君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

次回の本会議は、明日12月19日午前9時に開会し、5名の一般質問を行います。

本日はこれで散会します。お疲れさまでした。

散会 午後 1時48分